

40th

白夜

— 創立40周年記念号 —

2019



北海道スウェーデン協会

40周年記念誌

contents

- 1 北海道スウェーデン協会創立40周年巻頭言**
50周年に向けて 北海道スウェーデン協会 会長 加藤 誠 — 1
- 2 創立40周年に寄せる言葉**
北海道スウェーデン協会創立40周年にあたって
北海道スウェーデン協会 顧問・前会長 杉本 拓 — 2
北海道スウェーデン協会40歳のお祝いとこれからの期待
北海道スウェーデン協会 顧問、東海大学名誉教授 川崎一彦 — 3
北海道スウェーデン協会40周年に寄せて
北海道スウェーデン協会 常任理事、鈴木内科医院 理事長・院長 鈴木岳 — 5
- 3 創立40周年記念祝賀会報告**
(1) 加藤誠会長挨拶 — 6
(2) 祝辞 — 6
(3) 祝賀会 — 9
- 4 北海道スウェーデン協会40年の歩み**
北海道スウェーデン協会活動記録(1978～2018) — 10
初代会長・副会長のこと(加藤会長が協会創立当時を振り返って) — 23
- 5 日瑞外交樹立150周年／当協会設立40周年記念行事報告**
さっぽろ雪まつりスウェーデン雪像 — 24
スウェーデン月間の開催 — 25
スウェーデン・ソング・コンテスト — 26
タラナシンフォニーエッタ札幌公演 — 27
マグヌス・ローバック駐日スウェーデン大使講演 — 31
- 6 さっぽろ雪まつりスウェーデン雪像制作手記「大雪像ができるまで」**
札幌市大雪像制作委員会 第3雪像制作部会 高木英紀 — 35
コラム スウェーデンカロリンスカ医科大学病院 宮川絢子先生 — 40

1 北海道スウェーデン協会創立40周年巻頭言

50周年に向けて



北海道スウェーデン協会 会長 藤 加 誠

北海道スウェーデン協会は、2018年11月27日、創立40周年を迎えました。

当日、駐日スウェーデン大使マグナス・ローバック大使閣下の御参加を得て、盛大な祝賀会が行われたのでした。

当協会の目的の第一は、日本とスウェーデン間の文化交流の推進にあります。2018年は、日本とスウェーデンの修交150周年でもありました。この中で、上記の目的に沿って活動してきた当協会の40年は、なかなか大変なものだったと感じます。随分いろいろな行事、催事、活動がありました。絵画展、物産展、映画会、音楽会、講習会、セミナー、雪祭り雪像コンテストの応援、親善旅行、研修、発表、報告会、歌コン（ソング・コンテスト）、親睦会等々。

中でも、40周年の昨年は、ことに多くの行事がありました。そのハイライトは、杉本拓 前会長のイニシアティブにより、HBCのお力で実現した札幌雪まつりでのストックホルム大聖堂の大雪像でありましょう。当協会の活動の可視化された頂点と云えると思います。40周年にふさわしいものでありました。

さて、当協会はいよいよ次の50周年に向けて歩みを始めました。スウェーデン大好き人間の集まりである当協会には、やれること、やるべきことがいっぱい待っているように思われます。久しぶりに親善旅行もいいかもしれません。昨年始まった歌コンは継続が期待されています。セミナーのトピックスには、こと欠かないように思います。多様で多才な会員皆様のお知恵とお力で、北海道スウェーデン協会が益々発展していくことを切に祈ります。

2 創立40周年に寄せる言葉

北海道スウェーデン協会創立40周年にあたって

北海道スウェーデン協会 顧問・前会長 杉本 拓

昨年2018年は北海道スウェーデン協会が創設40周年を迎えるとともに、日瑞国際関係樹立150周年に当たるといふ意義深い年でした。関係団体をはじめご協力くださった多くの方々々に深く感謝申し上げます。

1978年当協会の初代会長湊正雄氏、二代目秋山喜代氏のあと1996年会長をお引受けしましたが、創設時から当会の運営に関わってこられた、現会長北大名誉教授加藤誠氏のもとで40周年の諸記念事業を行うことができましたことに感慨深いものがあります。

私が会長としての22年間は、現在ストックホルム在住で当会顧問の元東海大学教授川崎一彦先生抜きでは語れません。

私が札幌市在職中、板垣武四札幌市長（故人）が提唱して始まった北方都市会議（隔年開催）の第2回開催地ノールウェー・トロムン市を準備・打ち合わせのため訪問し、その帰りにストックホルムに立ち寄りました。そこで川崎先生が企画してくださったセミナー「Sapporo day in Stockholm」を開催し、それがきっかけでスウェーデンの行政、福祉、IT産業、コンベンションなどに関心をもつようになったことです。

このようことから市役所退職後、川崎先生の強い要請を受け会長をお引受けしましたが、設立当初から中心的活動をされ、故人となられた北大出身の八木健三氏、石田茂雄氏など当会会員にはスウェーデン留学経験の先生方が多く、研究や生活体験などを話題に講演やセミナーの実施、その後スウェーデン交流センターとの連携、北方圏センター（現北海道国際交流・協力総合センター）と共催の北方圏講座、恵庭市で長年続いている「ロシア祭」の支援、あるいは両国のスポーツや学生交流などホイスコーレ札幌その他多くの関係団体の協力をいただきながら多彩な活動を行ってまいりました。

また、1996年以来当会活動の拠点として事務所を設置してくださった「アラゼン」、事務処理一切を担ってくださった伊藤さん、赤坂さん、役員としてお力添えいただいている社長・荒井竜一氏に感謝いたします。

その活動からごく絞って主なものを挙げますと

20周年には20数人の訪問団を結成し、ストックホルム市及び近郊を訪れて風光明媚な自然環境に触れ、バイキングの歴史及び歴史的建造物等とおして見聞を広めるとともに市庁舎などノーベル賞の世界にひたることができ、また、あらかじめ予定をしていた下だった市民との交流を深めるという画期的機会を持つこともできました。

2004年には札幌市においてスウェーデン王国エステルヨーランド県手工芸品展がテープカットならぬテープ結びで開会のオープニングセレモニー、多くの入場者をお迎えしました。

手工芸品展が縁となり2006年には同県リノベーションセンター、多くの入場者をお迎えしました。が開催され、北海道から100人余が参加するとともに、当別町と姉妹都市提携しているレクサント市を訪問するグループなどそれぞれ親善の目的を果たすことができました。

2015年世界女子カーリーング選手権札幌大会が行われスウェーデンチームの激励会・応援、2016年4月にはスウェーデン・日本友好国会議員連盟訪日調査団の歓迎・交流、2018年3月エストレルヨートランド県議会議員訪問団歓迎・交流など近年スウェーデンからの訪問者が多くなり当協会にとっても喜ばしい嬉しい出来事が続きました。

最後に特筆すべきことは2018年日瑞国際関係樹立150周年記念事業です。

2013年2月渡邊芳樹在スウェーデン特命全権大使（当時）の講演会「未来のために今、日本とスウェーデンが出来ること」後のレセプションにヴァリエ駐日スウェーデン大使（当時）も出席され両者で日瑞国際関係樹立150周年について語られたときから当協会の準備も始まりました。

2018年の幕開け2月、さっぽろ雪まつり、「ストックホルム大聖堂」の大雪像は圧巻でした。HBCの役員ほか制作にあたってご苦労された関係者に心から感謝申し上げます。

3月のスウェーデン月間、7月のスウェーデン・ソング・コンテストの実施、9月にはスウェーデン交流センターをはじめ関係団体とすすめたダラナシンフォニーエッタ来札公演、スウェーデン交流センター創立35周年記念事業でもありました「日瑞ガラス・木工作品展」など大きな成果を挙げました。そして当年最後を締める当協会40周年記念式典にはマグヌス・ロバック駐日スウェーデン大使が来札、講演して下さる榮譽をいただきました。

当協会創立40周年を節目に、日瑞国際関係樹立150周年で培った叡智を基礎に北海道とスウェーデンをはじめ北欧諸国と政治、経済及び文化の交流発展のために貢献することを期待いたします。

最後に当協会の活動に対し適切な示唆を下さり欠くことのできない顧問・川崎一彦氏が2018年7月、「日本とスウェーデンの相互理解の促進への寄与」を理由に外務省より外務大臣表彰されたことを当協会全会員とともに慶び敬意を表し結びいたします。

北海道スウェーデン協会40歳のお祝いとこれからの期待

北海道スウェーデン協会 顧問、東海大学名誉教授 川崎一彦

北海道では1971年に第三期北海道総合開発計画に「北方圏構想」が盛り込まれて半世紀近く、また1978年4月には「社団法人北方圏センター」が発足して40年以上になります。

40歳の北海道スウェーデン協会も含め、北海道は北欧との交流では日本の先進地域です。

私は2013年に定年退職後、スウェーデンに住んで活動をしています。

ここスウェーデンからみえてくる日本は人口減少、経済低迷、課題先進国。それに対してスウェーデンは人口増加、好調な経済、課題解決先進国。経済（生産）、福祉（分配）と持続可能性（総和）を併存させています。両国の違いが明確すぎて、遺憾ながらわが国の将来に危機感を持たざるを得ません。

“課題先進国”日本は経済、福祉、環境のすべての面で依然スウェーデンに学ぶ点が多いでしょう。

民主主義、多文化共生、環境と持続可能性、人生100年時代の働き方・生き方・学び方、アウトド

ア教育、起業家精神教育*1、生涯教育等々北海道や日本の長期ビジョンに具体的なヒントと実例がスウェーデンや北欧には多くあります。

一方、スウェーデンの日本への関心も高く、多岐に渡ります。

2018年日瑞両国は国交樹立150年を盛大に祝い、両国で様々なイベントや交流で盛り上がりしました。しかし、両国の交流は昨年未で終わったわけではありません。

2018年に明らかになった両国の共通の関心や課題をこれからもメンテして育てていくことは、それ以上に大切でしょう。

この課題を“Beyond 2018”と呼ぶことにしましょう*2。

日瑞両国の共通の関心は、単に二国だけではなく、グローバルで普遍的な問題意識であることが多いようです。

そこで“Beyond 2018”は日本とスウェーデンや北欧諸国などがコラボして一緒に世界に発信していくことを目標とします。

2018年に明らかになった両国の共通の関心や課題には多くのヒントがあります。

スウェーデンではストックホルムとヘルシンギボリで2019年2月に“Beyond 2018”のスタートアップミーティングを開催しました。予想以上の高い関心があり、教育、男女共同参画、AI（人工知能）、精神医療など多くのコラボプロジェクトが提案されました。

今年には新たな北海道知事も誕生します。北海道も改めてスウェーデンに目を向け、これからの北海道や日本を考える時期でしょう。40にして惑わず。北海道スウェーデン協会の新たな出番です。

*1 川崎一彦「スウェーデンの起業家精神教育」『みんなの教育 スウェーデンの「人を育てる」国家戦略』（ミツイパブリッシング、2018）

*2 川崎一彦「Beyond 2018—2018年を超えて」白夜第39号、pp.3-6

北海道スウェーデン協会 40周年に寄せて

北海道スウェーデン協会 常任理事、鈴木内科医院 理事長・院長 鈴木 岳

このたびは40周年を迎え、誠におめでとうございます。私が入会させて頂いたのは2011年8月に帰国後のことでした。帰国当時の私は非常に複雑な心境でした。生活基盤をようやく作り、さあこれからスウェーデンでのびのびと暮らすのだという夢を家庭問題整理と家業の継続運営のために帰国したためです。これらは全く私の性分や手に入れたスローライフとは合わないことでした。そんな未練をたぶつ残した、愛するスウェーデンと少しでも繋がっていたいという気持ちで加入させていただきました。

加入させていただいて、諸先輩がたの温かいご指導のもと、スウェーデンとのつながりを維持するだけではなく、会社運営や生きて行くために参考に参考となる多くの学習機会をいただきました。紙面をお借りし、御礼を申し上げます。先だって御来札されたローバック大使がこの40年の功績を称えられ、杉本前会長、加藤会長に心からの謝辞を述べられたことは当協会の大きな業績の証左であり、感激しました。

帰国後、予想をはるかに上回る、日本のひどい政治社会情勢にほとほと嫌気のする毎日です。一方、仕事に興味にスウェーデン在住のままではあり得なかった多くの可能性をいただいた8年でもありました。親孝行するにもギリギリ間に合いました。

帰国直前に医局長Hans先生がくれた言葉は今も思い出されます。彼は私のスウェーデン医師免許取得に尽力してくれたのと同じ年、当時に45歳で人望厚い医師でした。「人生は思った通りにいかない。でも、それが人生だよ。」と眉間に深いしわを寄せて慰めてくれました。帰国後、まもなくHansが離婚したことを知りました。順風満帆に見えた彼も苦悩していたのだなあ。

スウェーデンの政治、社会情勢も随分と困難な状態になっているようです。どこの国にもひどい所もあれば、良い所もあるのだと思います。日本とスウェーデンを注視しながら、少しでもより良い社会になるよう貢献したい。おそらく、日本とスウェーデンの福祉制度は互いに近づいて行くように思います。それは日本の生活者にとって我慢が増すことになり、スウェーデンにとっては財政負担がより増すことになります。今、最も心配しているのは日本の民主主義です。この劣化は非常に社会を暗くし、窒息させていくことでしょう。昔のソ連が破綻した道を歩んでいるように見えます。国難のなか、人生の舵取りはますます難しくなりそうです。Life is Adventure！ 今後も北海道スウェーデン協会を通じて、遠く離れたスウェーデンを少しでも近くに引き寄せる活動をしていきたいと考えています。いつの日か、再帰国する日を夢見て。



3 創立40周年記念祝賀会報告

平成30年11月27日、ホテルモントレエーデルホルフ札幌12階ベルクホールにおいて、当協会の創立40周年記念祝賀会が行われました。

当協会会長の挨拶及び来賓の方々のご祝辞を御紹介いたします。

(1) 加藤誠会長挨拶

本日は、御多忙の中、御来場いただきました皆様に対して、厚く御礼申し上げます。

本日11月27日は、当協会創立の記念日となります。この日に、ローバック駐日スウェーデン大使に遠路はるばるおいでいただきたいご出席を賜り、皆様とともに祝賀会を開催できることを大変に嬉しく思います。

本祝賀会に先立って行われましたローバック大使の講演は、多数の写真を用いて、大変に興味深い内容でしたし、大使御自身の御尽力の様子もよく伝わってまいりました。外交官という御職業はおもしろいものと思いますが、御講演の中で紹介されたような学術交流などもその任務のひとつでありましょう。そして、私ども、北海道スウェーデン協会も、北海道とスウェーデンの間の様々な文化交流に尽くしてまいりました。

さて、私も、大使の御講演に倣って、今年一年の当協会の活動をご報告しましょう。年が明けて、二月にはさっぽろ雪まつりにストックホルム大聖堂の大雪像がつくられ、大使にもおいでいただいたところ です。この大雪像は、杉本前会長のスウェーデンの雪像をつくらんという長年の働きかけが実を結んだものであり、HBCさんの企画で実現いたしました。日瑞友好150周年の節目の年にこのような雪像がつくれたことは誠に嬉しい限りであります。

9月のダーラナシンフォニーエッタの公演も大成功を収めました。札幌フィルハーモニー管弦楽団との共演や出張公演と、多様なプログラムが用意されました。

規模は小さいのですが、7月には初めて、スウェーデン・ソング・コンテストが開催されました。おそらくは、これからも続くであろうと思っています。

来月には、当協会主宰ではありませんが、協合理事の掛水さんが恵庭で開催しているルシア祭のイベントが開催されます。楽しみです。

本日は、当協会40年の歩みに思いをはせながら、大いに話を弾ませていただきたいと思えます。今後とも、当協会の発展に努力していく所存ですので、皆様の御支援をよろしく願っています。

(2) 祝辞

マグナス・ローバック スウェーデン王国駐日大使

皆様、こんばんは。

北海道スウェーデン協会の創立40周年を心よりお喜び申し上げます。

この場には、北海道、札幌市、当別町、そして、枝幸町と、スウェーデンとの交流に特に関係の深い自治体の皆様方もお揃い です。皆様方のこれまでの交流にかかわる御努力に感謝申し上げます。首長の方々は、本日、東京で重要なイベントがあつて、皆様、そちらに出席されているとお聞きしてい

ますが、その成功をお祈り申し上げます。

ここで、杉本前会長について、お話をすることをお許しただきたいと思えます。

杉本前会長は、北海道とスウェーデンとの交流促進に長年にわたって大変な御尽力をされてきました。私は、東京以外の地域で、北海道ほどスウェーデンとの交流に尽くしてきたところはないと思っています。スウェーデンの人たちが日本にやってくる時、もうひとつの目的地となりうる場所でもあります。そうして、杉本氏の任期の期間、国会議員団、地方議会関係者、そして経済団体等、数多くの使節団を迎え入れていただいたわけですから、これからもよい仕事を続けるであります。

北海道スウェーデン協会は、これからの心からの感謝を捧げたいと思えます。

そして、その礎を築いた杉本氏に心からの感謝を捧げたいと思えます。



降壇後、大使から本年で会長職を辞した
杉本顧問・前会長に記念品が贈呈されました。

北海道副知事代理・北海道公営企業管理者 浦本元人氏



本来ならば、高橋知事から御挨拶申し上げますところ、出席がかなわず、私の方から御挨拶申し上げます。

北海道スウェーデン協会創立40周年、おめでとうございます。
本道としても、北海道とスウェーデンの友好親善に尽くしていただきました皆様に感謝申し上げます、大使も御臨席の中、40周年を祝いたいと思えます。

北海道スウェーデン協会におかれては、様々な国際交流のためのイベントに関わってくださいました。たとえば、さっぽろ雪まつりの国際雪像コンクールにおけるスウェーデン・チームへの支援等が挙げられます。皆様の御尽力に感謝申し上げます。

本年は日瑞友好150周年ということで、道内でもこれを記念するイベントが行われましたが、同時に本年は、本道命名150年の節目の年でもあります。ダーラナシンフォニーエッタ公演は、命名150周年記念事業にも御登録いただきました。共にやってくれたことを大変にうれしく思う次第です。

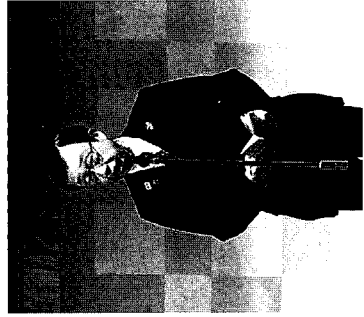
今後とも、御協会の発展を心から祈念いたします。

札幌市長代理・札幌市副市長 町田隆敏氏

本日は、北海道スウェーデン協会の創立40周年をお喜び申し上げます。

また、この場でローバック大使とお目にかかれたいことを大変に光栄に存じます。

北海道スウェーデン協会の皆様におかれましては、各方面での交流を通じて、日瑞両国の親善に努めてられましたことに敬意を表します。



北海道とスウェーデンは、互いに遠距離の位置にありますが、それにもかかわらず密接な交流が重ねられてまいりました。

本年においても、さっぽろ雪まつりでのストックホルム大聖堂の雪像建設、エステルヨートランド県使節団の来道、ダーラナシンフォニーエッタ公演といったイベントがあります。こうしたことが成功裏に行われましたことも御協会の御尽力があればこそと考えております。それは、札幌の国際化にも貢献していただいているということでもあり、感謝申し上げます。

私自身、スウェーデンには一度訪問したことがあります。スウェーデン・ヒルズ・カントリークラブには、年に数回お世話になっているのですが（会場、笑い）。

北海道スウェーデン協会のさらなる交流活動の進展を祈念して、私の御挨拶といたします。

枝幸町長代理・今井靖雄副町長



北海道スウェーデン協会創立40周年をお喜び申し上げます。

本年は日瑞友好150周年の年でもあり、それをローバック大使とともに祝うことができていることを喜んでおります。

枝幸町は、スウェーデンのソレフテオ市と姉妹都市提携をしております、本年がその30周年の年になりました。この夏には、ソレフテオ市から五人の代表団をお招きして、これを祝ったところです。

今後の両国の交流がますます活発化することを期待し、また、北海道スウェーデン協会のますますの発展を祈念したいと思います。

当別町長代理・増輪肇副町長



北海道スウェーデン協会の40周年記念式典が盛大に開催されたこと、おめでとうございます。ローバック大使御臨席の下、会が開催されたのも、皆様の熱心な活動の賜物と認識しております。

私に御協会と縁ができましたのは、2005年のことでございます。当時、当別町は、2007年のスウェーデン・レクサンド市との姉妹都市提携20周年記念事業を控えて、同市の50人からの使節団を受け入れる準備を進めているところでありまして、私どもは、「こんなに多くの人々の訪問は、進駐軍以来だ」と冗談を言っていたものです。御協会の臼井氏にお会いし、御協会の御助力を得て、記念事業を成功させたことが思い出されます。

また、2008年には、スウェーデン大使館の支援を得て、IKEA、ガデリウス、スカンジナビア航空が当別町にお越しいただき、プレゼンテーションをしていただきました。レクサンドとの交流を含めて、日本・北海道とスウェーデンとの交流を達成できたかと考えているところです。その際のスウェーデン大使館の御支援についても、改めて感謝申し上げます。

当別町では、昨年の9月23日に道の駅を開業いたしました。その名も、「北欧の風 道の駅とうべつ」と言います。おかげさまで、開業以来一年一ヶ月で来場者数が遂に百万人を達成することができました。今年も、敷地内にスウェーデン館を建設いたしました。建物は、スウェーデン・ハウズさんからの寄付であります。中身はこれからです。内容は充実を期してまいりたいと考えています。

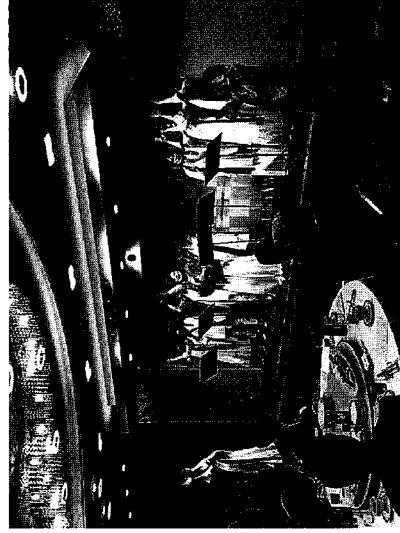
私どもとしても、御協会のお知恵を借りながら、日瑞交流の橋渡しの役割を果たしたいと考えています。今後の御協会の御発展を祈念いたします。
(皆様の健康を祈念して、乾杯)

(3) 祝賀会

祝賀会では、この40年を思い起こして、いろいろな話に花が咲きました。

途中では、ゴスペルシンガーのNatsukiさんを始めとするNatsuki Vocal Schoolの皆さんがABBAの曲を歌唱してください、会場は大いに盛り上がりました。その後、雪まつりのストックホルム大聖堂の雪像をつくった制作隊班長の高木英紀氏がスライドでその様子を映しながら、当時の苦労話をしてくださいました。

こうして、会は盛況のうちに幕を閉じました。



Natsuki Vocal Schoolの皆さんによるABBAの曲の歌唱



Natsukiさん



高木氏による雪像制作苦労話



記念品としてアイヌ様様の衣装を贈られ
ご満悦のローバック大使

4 北海道スウェーデン協会 40 年の歩み

北海道スウェーデン協会活動記録 (1978～2018)

当協会の創立から 40 周年までの各年の主な出来事をまとめてみました。

本号では、主に最近 10 年間の動きを中心にしており、創立から 30 周年までについては重要事項に絞って記載してあります (30 周年までの詳細は、白夜・創立 30 周年記念号に掲載されています)。

1978

■ 11 月 27 日

北海道スウェーデン協会発会式 (札幌グランドホテル)

オーデパバル大使他 70 名出席

1979

■ 9 月 7 日～20 日

北海道地場産業振興スウェーデン調査団派遣

主催：北海道未来総合研究所、北方圏センター

1980

■ 10 月 15 日

在札幌スウェーデン名誉領事館開設 10 周年記念祝賀

会 (北方圏センター国際会議場)

主催：北海道スウェーデン協会

後援：北海道、札幌市、北方圏センター

■ 10 月 15 日

スウェーデン映画の夕べ (道新ホール)

■ 10 月 16 日～21 日

スウェーデン展 (丸井今井デパート)

北海道スウェーデン協会/北海道新聞社共催

■ 12 月 8 日

スウェーデン大使館報道官ユベウス氏との懇親会

1981

■ 9 月 14 日

「コスタ 300 年展」

北海道近代美術館/北海道スウェーデン協会共催

ロネウス大使夫妻来道

■ 11 月 6 日～9 日

スウェーデン北海道展

主催：北海道他

協力：北海道スウェーデン協会

■ 11 月 27 日

スウェーデン BRU (肢体不自由児青少年協会) 一行 6 名来札

講演会/主催：札幌いちご会、後援：北海道スウェーデン協会

■ 12 月 10 日

NRC 北方圏セミナー

講演会「スウェーデンの消費者政策」

講師/スヴェン・ホルグレン氏

主催：スウェーデン大使館

協力：北海道スウェーデン協会

■ 1982

- 1月30日 講師/ビルギッタ・ヴィーストランド女史
「札幌雪まつり国際雪像コンクール」に初参加のス
ウェーデン・チーム支援
■ 2月15日 講演会「女性の生涯教育」(北方圏センター)

■ 1983

- 7月22日 スウェーデン交流センター・北方圏センター共催
講演会「北欧における教育制度について」(共済サロン)
講師/ウラ・クリステンセン博士
■ 8月30日 スウェーデンセミナー
講演会「スウェーデン福祉国家への道～その光と影～」
講師/高須裕三氏

■ 1984

- 1月30日 旭川スウェーデン協会設立総会・祝賀会
■ 1月31日 旭川「スウェーデン・フェア」(旭川西武百貨店)
後援:北海道スウェーデン協会
■ 2月4日 第35回札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する支援
■ 3月30日 スウェーデン映画「美と詩の世界」(教育文化会館)
主催:札幌市教育文化財団
後援:北海道スウェーデン協会
■ 5月18日 講演会「スウェーデンの芸術織物について」(札幌市婦
人文化センター)
講師/植松恵美子氏 共催:スウェーデン交流センター

■ 1985

- 2月25日 講演会「ウプサラの思い出」(共済サロン)
講師/市川瑞彦氏
■ 3月1日 スウェーデンセミナー
講演会「スウェーデンの政治・経済・福祉政策」(北方圏センター)
- 講師/スウェーデン大使
共催:北方圏センター、スウェーデン交流センター
■ 10月22日～11月15日 「スウェーデンの暮らし展」
主催:スウェーデン交流センター、北方圏センター
後援:北海道スウェーデン協会

1986

■ 1月31日

第37回札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する支援

1987

■ 2月5日

北方圏センター、スウェーデン交流センターと共催

■ 10月14～15日

スウェーディッシュ・バイキング・ダンスーズ公演

スウェーデン交流センター、北方圏センター、旭川スウェーデン協会と共催

■ 2月18日～28日

札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する支援
「北スウェーデン紹介と北方伝統工芸(サメ・アイス)展」
(北方圏センター)

1988

■ 3月2日～29日

「スウェーデン・フィンランド アイス文化展」

■ 5月10日

ストックホルムの小学校から児童絵画30点及び手紙
47通到着(市内協力3校へ配布)

■ 7月9日～9月18日

「北欧・トナカイ遊牧民の工芸」後援(北海道開拓記念館)

■ 7月25日

スウェーデンへ児童画64点・手紙51通送付(北九
条・幌北小学校)

■ 10月8日～17日

「児童絵画交流展」(地下街ポータルタウン)

■ 12月9日

在道スウェーデン人との交流会(北方圏センター)

1989

■ 2月8日

スウェーデンへ児童絵画28点・手紙12通送付(豊水小学校)

■ 3月23日

スウェーデンへ児童の手紙15通送付(幌北小学校)

■ 6月10日

ヨーテボリ市リンドス小学校から児童絵画37点及び
展示風景写真等到着

■ 7月4日

リンドス小学校へ児童画38点送付(幌北小学校)

■ 8月16日

リンドス小学校へ児童の手紙18通送付(幌北小学校)

■ 10月26日

マルメ市ヴィンデタール小学校から児童絵画56点・
テープ到着

1990

■ 2月5日

札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する支援

■ 3月17日

スウェーデン国王来道記念「環境問題シンポジウム」開催
(北海道スウェーデン協会が北海道実行委員会に参画)
スウェーデン国王歓迎昼食会・夕食会(ホテル・アル
ファサッポロ)

■ 5月24日

「スウェーデン・オープンズマンセミナー」後援(北方圏センター)
主催：北方圏センター

■ 10月15～20日

「スカンジナビア・ウィーク」共催
主催：札幌国際プラザ

1991

- 2月5日 札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する支援
- 2月21日 ヨーテポリ市リンドス小学校へ児童画14点送付(幌北小学校)
- 7月3日 講演会「ETT LAND SOM ANDRA?」(共済サロン)
～スウェーデンは欧州の単なる一国になりつつあるのか～
講師/川崎一彦氏(北海道東海大学教育開発センター助教授)
スウェーデン留学生との交歓会

1992

- 1月10日 スウェーデン・フシエ小学校へ児童絵画43点送付
(北九条小学校)
- 2月3日 札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する支援
- 7月14日 講演会「スウェーデンの歳時記」(共済サロン)
講師/横山隆氏(北海道スウェーデン協会会員)
スウェーデン留学生との交歓会
- 10月21日 スウェーデンへ児童絵画43点送付(北九条小学校)

1993

- 2月4日 札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する支援
- 5月20日 スウェーデンへ児童絵画43点送付(北九条小学校)
- 6月25日 スウェーデン青少年訪日研修団歓迎パーティー(共済サロン)
- 11月25日 講演会「地質学者の見たスウェーデン史」(共済サロン)
講師/Bo Sjöberg 博士(ストックホルム大学)
スウェーデン留学生との交歓会

1994

- 2月4日 札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する支援
- 6月14日 講演会「スウェーデンを通して“環境問題の本質”を考える」
講師/小澤徳太郎氏(スウェーデン大使館科学技術部)

1995

- 2月6日 札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する支援
- 7月5日 講演会「激動するスウェーデンの政治と日本の政治」(共済サロン)
講師/ラージェ・バリエ氏(スウェーデン大使館公使)
- 11月11日 レーナ・マリア・コンサート後援
主催:北海道YMCA

1996

- 2月5日 札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する支援
- 10月10日 講演会「スウェーデンのビジネスウーマン」
講師/三瓶恵子氏

1997

■ 2月5日

札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する応援

■ 11月

日本・スウェーデン学生シンポジウム/交歓会
ゲストスピーチ/ラージュ・バリエ氏

1998

■ 2月

札幌雪まつり参加のスウェーデン・チームに対する応援

「環境行動から環境戦略へ」

講師/青正澄氏 (共立総合研究所研究員)

■ 11月

日本・スウェーデン学生シンポジウム/交歓会～「環境問題」

「生物多様性条約とナキウサギ裁判」

講師/八木健三氏 (北海道大学名誉教授)

1999

■ 2月

「札幌雪まつり国際雪像コンクール」参加のスウェーデンチーム応援 (Bチームで優勝→Aチームへ昇格)

■ 10月

日本・スウェーデン学生シンポジウム/交歓会～「若者と性」
記念講演「フィンランドとEUの社会政策の相違とEU

■ 4月

講演会「女性の社会進出ー日瑞比較」

加盟による問題点」

講師/アスコ・スイカネン教授 (フィンランド・ラップラ
ンド大学)

講師/Zulaika Carlqvist 氏 (ヨーテボリ大学院博士課程在籍)

「高齢者ケアの日瑞比較」

講師/Gustav Strandell 氏 (ストックホルム大学院生)

2000

■ 2月

「札幌雪まつり国際雪像コンクール」参加のスウェーデンチーム応援

■ 10月

日本・スウェーデン学生シンポジウム/交歓会～「若者の結婚観」

■ 4月

講演会「スウェーデンの福祉制度：なぜ税金が高いの？」

基調講演「若者の結婚観」

講師/古橋エツ子教授 (花園大学社会福祉学部)

講師/オリアン・ベッチェション氏 (ストックホルム大学
東アジア学科卒業)

2001

■ 2月

「札幌雪まつり国際雪像コンクール」参加のスウェーデンチーム応援

■ 10月

日本・スウェーデン学生シンポジウム/交歓会

基調講演「日本と北欧 大学生の意識を比較する」

講師/孝子・ブンゴード氏 (デンマーク在住/ユーロ
ジャパン コミュニケーション社長)

講演会「スウェーデン型福祉社会と個人主義」

講師/レグランド・塚口瀬子博士 (ストックホルム大学 Ph.D)

2002

■ 1月

新春講演「スウェーデン型経済構造改革」

■ 2月
「札幌雪まつり国際雪像コンクール」参加のスウェーデンチーム応援

講師/永山泰彦教授 (北海道東海大学国際文化学部)

2003

■ 1月

新春講演「日本の構造改革とスウェーデンモデル」

■ 7月4日
講演会「スウェーデンの音楽と文化」後援 (かでの2・7ホール)

講師/宮本太郎教授 (北海道大学法学部)

■ 2月

「札幌雪まつり国際雪像コンクール」参加のスウェーデン

ンチーム応援

2004

■ 1月

新春講演「LRTとは?—サッポロとスウェーデン」

■ 2月
「札幌雪まつり国際雪像コンクール」参加のスウェーデンチーム応援

講師/臼井寛氏 (常任理事)

2005

■ 1月

新春講演「本賊焼き(とくさやき)のスウェーデンでの

講演・シンポジウム (ルネッサンス・サッポロホテル)

個展・20才の学生と一緒に大学で学ぶこと」

三章会主催、北海道スウェーデン協会特別協賛

講師/生越玲子 (陶芸家)

「その人らしく最後まで」

■ 2月7日

～認知症の人を地域で支えていくためには～

「札幌雪まつり国際雪像コンクール」参加のスウェーデン

講師/バルプロ・ベック・フリス氏 (スウェーデン社会

ンチーム応援

福祉省エキスポアートアドバイザー)

2006

■ 1月

新春講演「スウェーデン政治における合意・納得への

■ 12月19日

北方圏講座 (共催:北方圏センター他)

工夫—レミス制度を中心として」

「スウェーデンの産業構造及び地方自治体と地元産業の連携」

講師/渡辺まどか氏 (北海学園大学)

講師/ベッティル・ダニエルズ氏 (スウェーデン・レク

サンズ市市長)

コーディネーター/川崎一彦教授 (北海道東海大学)

(北方圏センター会議室)

2007

- 1月18日
「スウェーデン教育セミナー」（共催：札幌国際プラザ、於札幌国際プラザコンベンションホール）
1. スウェーデン人が体験した日本の幼稚園
アニカ・イエーグランド博士
（北海道大学大学院環境科学院）
2. 日本人が体験したスウェーデンの高校
菅野永梨さん（北海道東海大学学生）
コーデイネーター／横山隆・本協会常任理事
- 6月11日～14日
スウェーデン交流展 2007 及び北欧百景写真展～系数
昌寧写真展
主催：北方圏センター／スウェーデン交流センター
後援：北海道スウェーデン協会
- 6月16日
駐日スウェーデン大使ステファーン・ノーレン夫妻歓迎
晩さん会
- 6月28日
北方圏講座
「初等・中等教育における創造性の育成 ～スウェーデン人から見た日本の現状と課題」（於北方圏センター）
講演「創造性時代のスウェーデン」 パトリック・スト
ローム博士（ヨーテボリ大学）
ブレゼンテーション「初等・中等教育における創造性の育成 ～スウェーデン人が見た日本の現状」（ス
ウェーデン人学生による調査結果）
主催：北海道東海大学／北方圏センター
協力：北海道スウェーデン協会

2008

- 1月23日
新春講演「高齢者ケアの人材育成 ～スウェーデンか
らのヒント」
講師／グスタフ・ストランドル氏（スウェーデン福祉研
究所所長）
- 2月4日
「さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール」参加のス
ウェーデンチーム応援
- 3月20日
スウェーデン・日本友好議員連盟訪日調査団および国
会職員歓迎会（ホテルモントレエーデルホフ札幌）

創立31年～

2009

- 1月9日
常任理事会（アラゼン）
- 1月21日
北海道スウェーデン協会創立30周年記念祝賀会
ノーレン駐日スウェーデン大使ご列席
参加者：54名 会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌
- 2月4日
さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール参加スウェーデン
チーム応援
参加者：8名 会場：大通11丁目会場
- 6月15日
平成21年度理事会・総会・講演会及び懇親会
講演「ノイスコーレについてー晩学のすすめー」
生越玲子氏（ノイスコーレ札幌代表、本協会常任理事）
会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌
- 8月26日
「第1回スウェーデン・日本サイエンスワークショップ」共催
共催：北海道環境財団、北方圏センター、本協会
- 12月
スウェーデンルシアを迎える会に協賛
主催：スウェーデンルシアを迎える会実行委員会
参加者：700名 会場：恵庭市民会館大ホール

2010

■ 1月29日

新春講演会及び新年交礼会

講演「福祉大国スウェーデンを支える鍵とは？」

エレナ・ディング・シユクルンド博士（ストックホルム

大学国際移民・民族関係研究所）

会場：ホテルモントレエーデルホルフ札幌

■ 2月4日

さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール参加スウェーデン

チーム応援

参加者：8名 会場：大通11丁目会場

■ 5月13日

常任理事会（アラゼン）

■ 5月26日

平成22年度理事会・総会・講演会及び懇親会

講演「駐在経験を通じて感じたスウェーデンの印象」

竹原勇一氏（国土交通省観光庁）

参加者：50名 会場：かでの2・7

共催：北方圏講座 総会・懇親会 参加者：14名

会場：ホテル札幌ガーデンパレス

■ 11月1日

常任理事会（札幌パークホテル）

■ 12月

スウェーデンルシアを迎える会に協賛

主催：スウェーデンルシアを迎える会実行委員会

参加者：700名 会場：恵庭市民会館大ホール

2011

■ 1月31日

常任理事会・新春講演会及び新年交礼会

講演「私が出会ったスウェーデンという国—Hoppoken

編集長として」

山田寿彦氏（北方圏センター出版部長）

参加者：50名 会場：ホテルモントレエーデルホルフ札幌

交礼会参加者：30名

■ 2月3日

渡邊芳樹 駐スウェーデン日本国特命全権大使を囲む会

参加者：杉本会長、加藤理事長、墨谷事務局長

会場：北方圏センター

■ 2月7日

さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール参加スウェーデン

チーム応援

参加者：11名 会場：大通11丁目会場

■ 3月13日

EbetsuShift「江別の活性化を考えよう」に協賛

■ 5月13日

常任理事会（アラゼン）

■ 5月22日

平成23年度理事会・総会・講演会及び懇親会

講演「ノーベル賞の舞台裏」

カイ・レイニウス氏（駐日スウェーデン大使館参事官）

津金・レイニウス豊子さん（同夫人）

参加者：60名

会場：ホテルモントレエーデルホルフ札幌

共催：北方圏講座

総会・懇親会参加者：19名

■ 6月25日

東海大学白熱教室へ協力

「駐韓スウェーデン大使ラーシェ・パリエ博士とス

ウェーデン・韓国・日本の学生との白熱教室」

会場：東海大学

■ 10月17日

常任理事会（アラゼン）

■ 12月7日

常任理事会（アラゼン）

■ 12月

スウェーデンルシアを迎える会に協賛

主催：スウェーデンルシアを迎える会実行委員会

参加者：700名 会場：恵庭市民会館大ホール

2012

- 1月14日
渡邊芳樹 駐スウェーデン日本国特命全権大使講演会
「欧州金融危機の最中にも前進するスウェーデンの強さと魅力」
参加者：70名 会場：京王プラザホテル
共催：北方圏講座
- 1月30日
新春講演会及び新年交礼会
講演「スウェーデンのイノベーションモデル」
三瓶恵子氏 (KEI International 代表)
参加者：60名 会場：ホテルモントレエーデルホルフ札幌
共催：北方圏講座 交礼会参加者：20名
- 2月3日
平成23年度第1回北極文学会
「どこにもない国に生きたエディ・セーデルグラン〜フィンランド・スウェーデンの薄命の女流詩人」
三瓶恵子氏 (KEI International 代表)
参加者：30名 会場：北海道大学連友学舎
共催：北方圏講座
- 2月6日
さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール参加スウェーデン
チーム応援 スウェーデンチーム準優勝
参加者：11名 会場：大通11丁目会場
- 2月22日
常任理事会 (アラゼン)
- 4月23日
常任理事会 (アラゼン)
- 5月21日
平成24年度理事会・総会・講演会及び懇親会
講演「欧州に学お脱・無縁社会への挑戦」
松田智生氏 (三菱総研)
参加者：60名 会場：ホテルモントレエーデルホルフ札幌
共催：北方圏講座 総会・懇親会参加者：19名
- 11月15日
スウェーデン照明セミナーに協賛
講師/遠藤おかり氏 (ストックホルム在住照明デザイナー)
参加者：70名 会場：駅前通地下歩行空間
主催：照明学会北海道支部
- 12月4日
常任理事会 (アラゼン)
- 12月9日
スウェーデンシルシアを迎える会に協賛
主催：スウェーデンシルシアを迎える会実行委員会
参加者：800名 会場：恵庭市民会館大ホール

2013

- 1月28日
新春講演会及び新年交礼会
講演「スウェーデンの幸せ、日本の幸せ、北海道の幸せ、そして」
川崎一彦教授 (東海大学、本協会常任理事)
参加者：70名 会場：ホテルモントレエーデルホルフ札幌
共催：北方圏講座 交礼会参加者：21名
- 2月4日
さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール参加スウェーデン
チーム応援
4位入賞 参加者：8名 会場：大通11丁目会場
- 5月11日
スウェーデン交流センター主催「ワールドカフェ」に参加
フェアリテーター：ヴァリエ駐日スウェーデン大使、川崎教授 (東海大学、本協会常任理事)
参加者：100名 会場：北海道大学学術交流会館
- 5月15日
常任理事会、川崎先生送別会
参加者：28名 会場：ホテルモントレエーデルホルフ札幌
- 6月19日
平成25年度理事会・総会・講演会及び懇親会
講演「日本の医療とスウェーデンの医療」
鈴木 岳博士 (医療法人社団 鈴木内科医院理事
長・院長、本協会常任理事)
参加者：43名 会場：ホテルモントレエーデルホルフ札幌
共催：北方圏講座
総会・懇親会参加者：16名
- 10月5日
(一財) 前田一歩園創立30周年事業に協賛

■ 10月30日

「第1回スウェーデンの社会保障を学ぶ講演会」に協賛
講演「地域包括ケアを实践しているスウェーデンから学ぶ」
エライン・ヨハンソン氏（元スウェーデン児童青年知的
協会 FUB 会長）
参加者：200名 会場：札幌市東区民センター
主催：実行委員会 後援：(医) 豊生会

■ 2014

■ 1月29日

新春講演会及び新年交礼会

講演「スウェーデン北部の歴史、生活・文化、経済及
び異文化理解」

ホーカン・ヘンリックソン氏（元公務員、小樽市在住）

参加者：46名 会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌
共催：北方圏講座 交礼会参加者：31名

■ 4月23日

常任理事会（アラゼン）

■ 5月21日

平成26年度理事会・総会・講演会及び懇親会

講演「現代スウェーデンからの教訓」

渡邊芳樹 教授（国際医療福祉大学大学院、元駐ス
ウェーデン日本国特命全権大使）

参加者：100名 会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌

共催：北方圏講座

総会・懇親会参加者：24名

会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌

■ 2015

■ 1月28日

新春講演会及び新年交礼会

講演「Keyword in 北海道～スウェーデンとこれから」

川崎一彦 名誉教授（東海大学、本協会顧問）

ニュッケルハルバ演奏会

ルイーゼ・ビュールンドさん（スウェーデン交流センター）

参加者：30名 会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌

■ 3月11日

世界女子カーリング選手権札幌大会出場スウェーデン

チーム激励会 参加者：27名

会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌「随縁亭」

■ 11月27日

常任理事会（北海道大学学術交流会館）

■ 12月15日

スウェーデンルシアを迎える会に協賛

主催：スウェーデンルシアを迎える会実行委員会

参加者：800名 会場：恵庭市民会館大ホール

■ 6月2日～19日

2014年日・EUフレンドシップウィークイベント「Visit

Sweden」を後援

主催：会場：北海道大学図書館 EU情報センター

■ 7月20日

札幌市消防局スウェーデン消防技術調査団との懇談会

参加者：10名 会場：北海道大学百年記念館

■ 10月15日

常任理事会（赤レンガカフェ）

■ 12月7日

スウェーデンルシアを迎える会に協賛

主催：スウェーデンルシアを迎える会実行委員会

参加者：800名 会場：恵庭市民会館大ホール

■ 12月17日

常任理事会（北海道大学学術交流会館）

■ 3月14日

世界女子カーリング選手権札幌大会出場スウェーデン

チーム応援（対ドイツ戦）

参加者：7名 会場：月寒体育館どうざんカーリング場

■ 3月30日

日瑞国交樹立150周年記念イベント意見交換会（ス

ウェーデン関連四団体）

参加者：6名 会場：北海道大学学術交流会館

■ 5月11日

常任理事会（北海道大学学術交流会館）

■ 5月28日

平成27年度理事会・総会・講演会及び懇親会
講演「スウェーデンの文化と教育から学ぶ」

石塚耕一教授（東海大学国際文化学部デザイン文化
学科、本協会常任理事）

参加者：44名 会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌
総会・懇親会参加者：24名

■ 7月6日

講演会と歓迎レセプション

講演「スウェーデンの現在」

森元誠二 駐スウェーデン日本国特命全権大使

参加者：50名 会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌

共催：北方圏講座 歓迎レセプション参加者：22名

2016

■ 1月15日

世界ジュニアカーリング選手権（フィンランドにて開催）
に出場する札幌カーリング協会ジュニアチームに協賛

■ 1月26日

新春講演会及び新年交礼会

講演「スウェーデンの文化と教育から学ぶ」をテーマに
学生からの報告

石塚耕一教授と学生（東海大学国際文化学部デザイン
文化学科）

参加者：34名

会場：北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」

■ 4月1日

スウェーデン・日本友好議員連盟訪日調査団歓迎会昼食会

参加者：18名

会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌「随縁亭」

■ 4月1日

スウェーデン・日本友好議員連盟訪日調査団歓迎レセプション

参加者：80名 会場：センチュリーロイヤルホテル

■ 9月17日～28日

北欧の豊かな時間「リサ・ラーション展」を後援

会場：三越札幌店 入場者：14,000人

■ 12月5日

常任理事会（北海道大学中央キャンパス研究棟）

■ 12月6日

スウェーデンルシアを迎える会に協賛

主催：スウェーデンルシアを迎える会実行委員会

参加者：800名 会場：恵庭市民会館大ホール

■ 12月23日

旭川スウェーデン協会主催クリスマス会に参加（横山

事務局長）

■ 5月21日

常任理事会（北海道大学中央キャンパス研究棟）

■ 6月8日

平成28年度理事会・総会及び懇親会

総会参加者：12名 懇親会参加者：13名

会場：北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」

■ 10月30日

北海道大学サステイナビリティ・ウィーク 2016 行事へ後援

「北欧とバルトの国々に学ぶサステイナブルな高等教育
のあり方」

講演者：マッツ・エングストローム氏（駐日スウェーデ
ン大使）他

参加者：100名 会場：北海道大学学術交流会館

主催：北海道大学

■ 12月11日

スウェーデンルシアを迎える会に協賛

主催：スウェーデンルシアを迎える会実行委員会

参加者：700名 会場：恵庭市民会館大ホール

2017

- 1月3日
世界ジュニアキャリアリング選手権（スウェーデンにて開催）に出場する札幌学院大学キャリアリング部に協賛
- 1月27日
新春講演会・ミニコンサート及び新年交礼会
講演「北海道の小規模市町村市街地の再生～スウェーデンにもヒントを求めながら～」
目黒聖直氏（北海道開発局）
ミニコンサート「スウェーデンの伝承歌」
野間美紀、友喜ご夫妻
参加者：70名 会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌
後援：北方圏講座 交礼会参加者：34名
- 2月13日
山崎 純 駐スウェーデン日本国特命全権大使歓迎レセプション
参加者：20名 会場：ホテルモントレエーデルホフ札幌
- 6月18日
当別町夏至祭参加 会場：当別町スウェーデンセンター
- 6月23日
常任理事会（開発工営社）
- 6月29日
平成29年度理事会・総会・講演会及び懇親会
講演「私が思う日本人の異文化交流感覚」
エラノア・セザール氏（スウェーデン交流センター）
参加者：22名 会場：センチュリーロイヤルホテル
総会・懇親会参加者：17名
- 9月11日
常任理事会（開発工営社）
- 10月28日
当別町レクサンド姉妹都市交流30周年記念行事参加
会場：当別町コミュニティセンター
- 12月11日
スウェーデンレシアを迎える会に協賛
主催：スウェーデンレシアを迎える会実行委員会
参加者：600名 会場：恵庭市民会館大ホール

2018

- 2月4日
ローバック駐日スウェーデン大使歓迎新年交礼会
参加者：25名
会場：センチュリーロイヤルホテル 22F「ロンド」
- 2月5日～12日
第69回さっぽろ雪まつり7丁目広場「スウェーデン広場大雪像」として「ストックホルム大聖堂」を制作展示
制作：さっぽろ雪まつり大雪像制作委員会第3部会
- 3月1日～31日
北海道×スウェーデンフェア（センチュリーロイヤルホテル）
■ 3月5日～7日
山崎 純 駐スウェーデン日本国特命全権大使枝幸町訪問同行（横山事務局長）
- 3月5日～25日
スウェーデン・ブックフェア（紀伊國屋書店札幌本店）
- 3月5日～31日
北海道×スウェーデン
日瑞国交樹立150周年記念+北海道スウェーデン協会創立40周年記念展示
- （スウェーデン特産品、風物詩ポスター、雪まつり大雪像模型などを展示）
会場：センチュリーロイヤルホテル ロビー
- 3月23日～25日
北海道×スウェーデン
日瑞国交樹立150周年記念+北海道スウェーデン協会創立40周年記念展示
（枝幸町～ソレフティオ市姉妹交流記録、当別町～レクサンド市姉妹都市交流記録、ホグロフス（スウェーデン）アウトドア用品、ボルボ車などを展示）
会場：アステイ45ビル地下1階公共広場
- 3月23日
スウェーデン・エステルヨーランド県ビジネスセミナー開催、テキスタイル展示
参加者：80名 会場：センチュリーロイヤルホテル
歓迎レセプション開催 参加者：40名
会場：アステイ45ビル地下1階レストラン The Lani
Kau Hawaii
- 4月25日
常任理事会（開発工営社）

■ 5月28日

平成30年度理事會・總會・講演會及び懇親會
講演「雪まつり大雪像制作の舞台裏」
高木 英紀氏（さっぽろ雪まつり大雪像制作委員會第
三部会制作班長） 遠藤かおりさん（照明デザイナー）
参加者：20名 会場：開発工営社
總會：懇親會参加者：20名
杉本会長が退任して顧問に、加藤理事長が会長、横
山事務局長が理事長に就任し、日黒常任理事が事務
局長を兼務することとなった。

■ 6月17日

当別町夏至祭参加 会場：当別町スウェーデンヒルズ

■ 7月14日

スウェーデンを歌う スウェーデンソングコンテストお
よび交流会
参加者：40名 会場：エルプラザ大ホール
交流会参加者：30名 会場：アスティ45ビル地下1

階レストラン The Lani Kau Hawaii

■ 7月21日～9月16日

スウェーデン芸術祭 in 小樽2018へ協賛
会場：小樽市美術館

主催：スウェーデン芸術祭 in 小樽2018 実行委員會

■ 9月18日～24日

ダーラナシンフォニーエニエッタ札幌公演
主催：北海道国際交流・協力総合センター（ハイエッ
ク）、札幌国際プラザ、スウェーデン交流セン
ター、札幌フィルハーモニー管弦楽団及び本協
会で招聘委員會を組成し、横山理事長が招聘
委員會委員長を務めた。

19日レクチャーコンサート（豊平館） 聴衆：30名

20日ダーラナシンフォニーエニエッタ単独演奏會（キトラ小ホール）
聴衆：300名

21日当別西小学校、当別高校での演奏會

23日ダーラナシンフォニーエニエッタと札幌フィルハーモニー
管弦楽団との合同演奏會 聴衆：700名

■ 11月27日

日瑞国交樹立150周年記念および北海道スウェーデン
協会創立40周年記念講演會および祝賀會開催
講演「2018年 日瑞交流の素晴らしい1年」

ローバック駐日スウェーデン大使

参加者：80名 会場：モントレエーデルホルム札幌

祝賀會参加者：30名

■ 12月9日

第25回スウェーデンシルシアを迎える會に協賛

主催：スウェーデンシルシアを迎える會実行委員會

参加者：600名 会場：恵庭市民會館大ホール

横山理事長が出席

■ 12月25日

常任理事會（開発工営社）

初代会長・副会長のこと（加藤会長が協会創立当時を振り返って）

北海道スウェーデン協会 会長 加藤 誠

北海道スウェーデン協会の初代会長は、湊正雄さん、副会長は秋山康之進さんでした。

秋山さんは陸軍将校でしたが、秋山家の養子になって、家つぎの喜代夫人と結婚、康之進を襲名、秋山愛生館を道内随一の薬品卸商に成長させました。北海道公安委員長、ロータリークラブの札幌地区ガバナ―をつとめ、小さな親切運動にも関わっておられました。

スウェーデン王国は、かねて札幌に名誉領事館を開設したいと考えており、適切な人物の推選を道庁に依頼してきました。時の道知事町村金五さんは、旧知の秋山さんを推し、秋山さんはこれを受けスウェーデン王国の初代名誉領事（札幌）に就任されたのです。スウェーデンには行ったことがなく、それまでは何の関係もなかったそうですが、ロータリーの奉仕の精神から、それを受けたと御本人から伺いました。

湊さんは著名な地質学者で、秋田生まれですが札幌育ちで、幌西小、札幌一中、北大予科を経て北大理学院に入り、ついにはその教授となりました。地質学会賞、道新文化賞など数々の賞を受けられておられます。私は湊さんに、学生、助手、助教授として仕えました。このあと、湊先生と書きます。

先生のお仕事の一つにオホーツク海沿岸湖沼の生成史の研究があります。内容は、網走湖を中心とした“湖の一生”というわかりやすい本にもなっていて、小学校の教科書にもとりあげられました。湊先生はこれを国際学会で発表され、それがスウェーデン地理学の泰斗アルマルン教授の目にとまり、この縁で一年間スウェーデンのストックホルム大学で研鑽をつまれることになりました。ストックホルムでは先生はスウェーデンの古生代サンゴ化石の研究をされました。このうち、先生はスウェーデン科学アカデミーの会員となることになりました。

スウェーデンが秋山さんと湊先生を結びつけました。お二人は相計って北海道スウェーデン協会の設立へと動くことになりました。これが40年前のことです。

スウェーデン名誉領事館は、スウェーデンから札幌を訪られた方々の“受け皿”になり、スウェーデン協会は関連の“実行部隊”となりました。

秋山さんの財界でのお立場から、秋山家のパーティーは札幌の名士のサロンのようなのですが、御縁で協会に加わってくださった方々にも、そのような雰囲気が強かったように思います。ですから当初の会員には、スウェーデンに何がしかの関連を持つ方々は少なかつたのです。

一方、湊先生は学会の名士でしたから、その縁で会員になる方もおられました。とくに、北大関係者が多く、そのうちにはスウェーデンに留学されたことのある方も何人もおられました。

秋山さんは名誉領事としてのお仕事を立派にこなされ、スウェーデンから北極星勳章をおくられました。太っ腹で、優しい心配りのお方だったと思います。

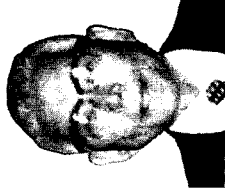
湊先生は一方で大胆、一方で細心な方でした。早くから会報を作り、これが今日の“白夜”のもとであります。白夜の名称は、誰方の案かわかりませんが、湊先生だったような気がします。会報の白夜の題字は秋山さんの筆によるものです。

秋山さんは早くに亡くなり、湊先生も亡くなって一時代が終わりました。会長職は秋山夫人喜代さんが受け継ぎました。

秋山さんも湊先生も、人としてとても魅力のある方でした。カリスマ性もお持ちでした。今はそれを知る人も少なくになりました。この小文と同様の趣旨のものを、以前書いたことがありますが、お二人を偲び、再び紹介させていただきます。



故 湊正雄氏



故 秋山康雄氏

5 日瑞外交樹立 150 周年 / 当協会設立 40 周年記念行事報告

2018 年は、明治元年に我が国とスウェーデンの間で国交が樹立してから 150 周年に当たる年でした。全国各地でそれを記念する事業が行われましたが、本協会創立 40 周年と同時にそれを祝うこととなった当北海道スウェーデン協会では、以下にご紹介するようなイベントの開催に参与し、あるいは主導しました。その結果、北海道では、全国の中でも特に数多くの日瑞外交樹立 150 周年記念行事が展開されることになったところです。

- 2 月 第 69 回さっぽろ雪まつり (2月5日~12日) でのスウェーデン雪像 (ストックホルム大聖堂とスウェーデン広場) 制作への協力
- 3 月 スウェーデン月間の開催 (各種展示会及びエステルヨートランド県ビジネスセミナー)
- 7 月 第一回スウェーデン・ソング・コンテスト
- 9 月 ダーラナシンフォニエッタ札幌公演
- 11 月 マグヌス・ローバック駐日スウェーデン大使講演 (協会創立 40 周年記念祝賀会)

さっぽろ雪まつりスウェーデン雪像

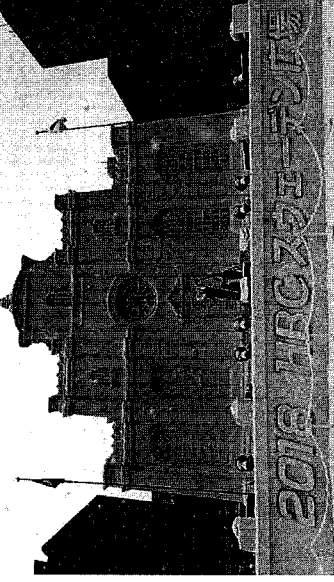
平成 30 年 2 月 5 日~12 日に開催された第 69 回さっぽろ雪まつりにおいて、HBC 広場にスウェーデンにちなんだ雪像がつけられました。ストックホルム大聖堂がそれで、その前にはスウェーデン広場と呼ばれる広場が設けられました。

会場では、日本人による ABBA のコピーバンドのコンサートなどが行われ、多くの人で賑わいました。夜間には、スウェーデンに留学経験のある照明デザイナー・速藤香織氏によるライトアップが行われ、幻想的な世界が現出して、多くの人たちに感動をもたらしました。

札幌の街中でスウェーデンが輝いた忘れられない時間となりました。

当協会では、その雪像制作に全面的に協力しています。

当協会の杉本会長及び横山事務局長 (当時) が、雪像の実現を HBC に精力的に働きかけるとともに、その運動が実って、HBC としても制作することを決定した後には、両者の間で綿密な打合せが行われました。事前のストックホルム大聖堂の実施調査に臨んでは、当協会員で現在はストックホルム在住の川崎一彦・東海大学名誉教授が現地にて、調査のために訪問した雪像制作隊スタッフを案内しました。その雪像制作隊スタッフの現地に入りに際しては、当協会から、たくさん



建設が進む大雪像

の情報を提供しました。

そのようなことがあって、見事な出来栄えに誰もが驚く堂々としていて、かつ精緻な雪像ができあがりました。

本号では、雪像づくりに当たった高木班長に当時は思い出して、寄稿していただいています。(35 頁参照)

スウェーデン月間の開催

1 センチュリーローイヤルホテル「北海道×スウェーデンフェア」

センチュリーローイヤルホテルにて、それぞれの姉妹都市であるスウェーデンのソレフテオ市、レクサンド市と文化・経済の交流を積極的に行っている枝幸町及び当別両町の食材を利用してスウェーデンをテーマにした特別料理を準備し、3月1日(木)～31日(土)の間、同ホテル2階朝食ビュッフェレストラン「ユーヨーテラス サッポロ」(朝食)、19階日本料理「北乃路」(ランチ)と23階スカイレストラン「ロンド」(ランチ及びディナー)の3レストランにて、提供しました。

両町の豊かな食材を活かしながらも、スウェーデン料理という少しの珍しい印象が加味されることで、独創的で斬新かつ味わい深い料理ができあがりました。

私たち当協会会員は、他の方々よりも多少はスウェーデン料理のことをよく理解しています。その私たちが見ても、これら料理をつくったセンチュリーローイヤルホテル・スタッフの皆さんは、よくぞ短期間の研究で、これだけスウェーデン・テイストの溢れる料理をつくりだしたものだ、そのプロ魂と技量にはひたすら驚かされるばかりです。



「北海道×スウェーデンフェア」のパンフレット

2 北海道×スウェーデン

日瑞国交樹立150周年記念+北海道スウェーデン協会

創立40周年記念展示 (センチュリーローイヤルホテル)

3月5日(月)～31日(土)の毎日10:00～18:30の間、センチュリーローイヤルホテル2Fロビーにて、雪まつり大雪像模型、スウェーデンの風景を楽しんでいただけの写真パネルやおすそめの観光情報、行事の情報などが展示されました。その中には、スウェーデンに親しみを感ぜてもらうため、当協会の助言を得ながら東海大学国際文化学部(札幌市南区)の学生がつくった創意工夫溢れるスウェーデン紹介パネルも含まれています。

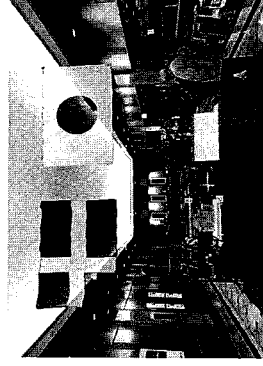
23日からは、エステルヨートランドの高級手織りクラフトも展示されました。

また、この期間中の3月23日(金)～25日(日)には、同ロビーにて、加えて、オホーツク海で育った帆立などの海産物をはじめ、加工品や珍味など、枝幸町の特産品が販売されました。

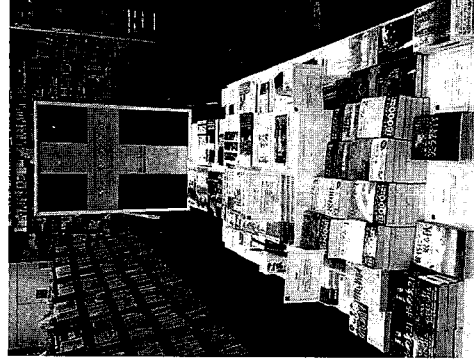
これら展示のコーディネートは、当協会が行ったものです。

3 スウェーデン・ブックフェア

3月5日(月)～25日(日)、紀伊國屋書店札幌本店にて、



センチュリーローイヤルホテルでの展示



スウェーデン・ブックフェアの様子

アストリッド・リンドグレンの「ピッピ・シリーズ」など大人には懐かしい児童書、21世紀最高のミステリーの呼び声も高い世界的超ベストセラー「ミレニアム」などの推理小説、さらには、北欧デザインの本、この国についての概説書など、ジャンルを超えてスウェーデン関係の書籍を集めたスウェーデン・ブック・フェアが開催され、書店側も驚くほどの好評を博しました。

この催しは、当協会が書店側に働きかけたもので、展示する本も、当協会が作成したリストをベースにしていたいただきました。

4 北海道スウェーデン

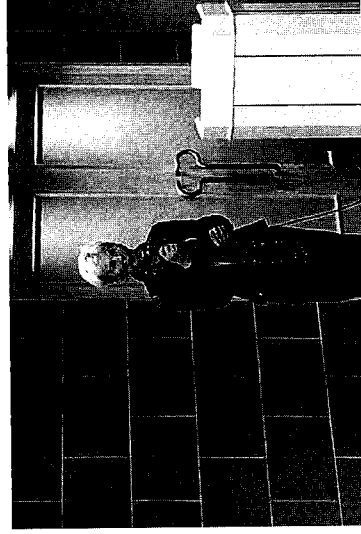
日瑞国交樹立150周年記念北海道スウェーデン協会創立40周年記念展示（アステイ45ビル）

センチュリーロイヤルホテルとは道路を挟んで向かいにあるアステイ45ビルでは、3月23日（金）～25日（日）に、地下1階にてスウェーデンを代表するアウトドア製品のメーカー・ホグロフスの製品、スウェーデン・レクサンド市と姉妹都市である当別町の30年におよぶ姉妹都市交流活動の様子を示したパネルなどが展示されました。また、23日には一階屋外広場にてボルボの車両も展示されました。

5 エステルヨーランド県ビジネスセミナー

3月23日（金）15：15～17：00に、センチュリーロイヤルホテル三階にて、スウェーデン中部エステルヨーランド県と北海道との経済交流の可能性を探るビジネスセミナーが開催されました。これに先立って、同ホテルロビーにて一行の団長であるエリザベス・ニルソン県知事を囲んで記念イベントが行われました。

また、一行の歓迎祝賀会も開催され、大いな盛りを見せました。下の写真右では、当協会からプレゼントされたアイヌ文様の衣装を着るニルソン知事が当協会会長と記念品を交換しています。



セミナーでのニルソン知事



一行の歓迎祝賀会での知事と当協会加藤会長

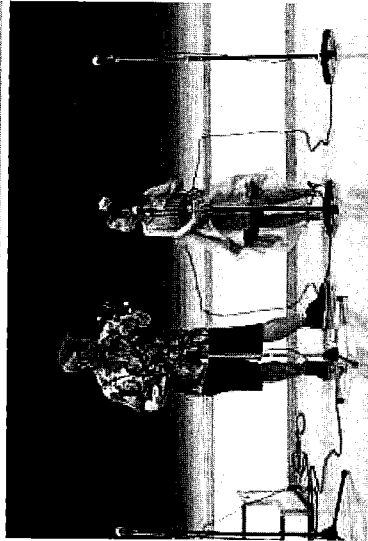
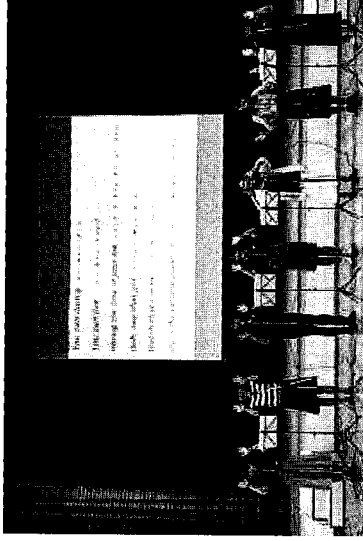
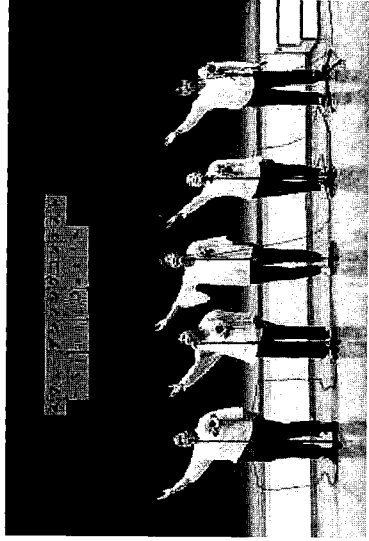
スウェーデン・ソング・コンテスト

7月14日、札幌エルプラザのホールで、当協会が主催する第一回スウェーデン・ソング・コンテストが開催されました。どの出場者も大変な熱唱で、集まった聴衆の人たちも熱心に耳を傾けました。歌う人たちと聴く人たちが一緒に、会場が一体となった大会でした。

コンテストは、三人の大学生からなる実行委員会によって運営されました。コンテストと銘打って

いますが、今回は特に審査を行うことはせず、全出場チームを優勝としました。用意された記念品は、出場者全員に手渡されました。そして、当協会会長の専決で、出場者の小学生の女の子に対して、特別賞に値するとの宣言がなされました。もっとも、そのための特別の賞品はなかったのですが。

また、コンテスト終了後には、ほぼ全ての出場者が近くの飲食店に集合し、交流会を開催しました。こちららも、皆さんが楽しい時間を過ごしました。



熱唱する出場者たち、そして、加藤会長とスウェーデンの民俗衣装を着た女性司会者らコンテスト実行委員

ダーラナシンフォニエッタ札幌公演

日瑞国交樹立150周年記念ダーラナシンフォニエッタ公演の成功！

レクサンド市を含むダーラナ地方を代表するプロのオーケストラ「ダーラナシンフォニエッタ」を招聘し、9月18日～24日の来道中に4回の演奏会、1回のレクチャークンサートを成功裏に開催することができました。2016年にスウェーデン交流センターと札幌フィルハーモニー管弦楽団によりプロジェクトの種が蒔かれ、2017年夏には北海道国際交流・協力総合センター、札幌国際プラザ及び北海道スウェーデン協会の3者が加わり招聘実行委員会を立ち上げ、実現までに足掛け2年の準備期間を要しました。

北海道命名150周年記念事業、スカンジナビアサカワ財団補助事業や伊藤組100年記念基金補助事業に採択され、皆さんへ後押しをして頂いたプロジェクトでもあります。本公演では、期間中以下の5回のコンサートおよび公演を開催しました。

①ダーラナシンフォニエッタ演奏会（単独公演）

日時：平成30年9月20日（木） 18：30～20：30

会場：札幌市コンサートホール Kitara 小ホール

R・シュトラウス「歌劇「ナクソス島のアリアドネ」序曲」

シヨスタコーヴィチ「チェロ協奏曲第1番」

プーランク「シンフォニエッタ」

300名弱の観衆は非常に質の高い演奏に満足し、共演者のスウェーデン人チェロ奏者トールレイフ・テデーン氏の演奏についても、アンコール曲「鳥の歌」（パブロカザルスの演奏で有名な）に涙する人もいて、大喝采をいただきました。



演奏会の様子

②ダーラナシンフォニエッタ・札幌フィルハーモニー管弦楽団合同演奏会

日時：平成30年9月23日（日） 17：30～19：30

会場：札幌市コンサートホール Kitara 大ホール
ベートーヴェン「コリオラン」序曲

マツ・ラーション・ゴータ「秋の日記」

チャイコフスキー「交響曲第5番」（合同演奏）

当日は700名の観衆の前で、前半はダーラナシンフォニエッタのみによる演奏、後半は札幌フィルハーモニー管弦楽団との合同演奏を行い、総勢90余名による大規模オーケストラによる迫力のある演奏会となりました。指揮棒を振ったダニエル・ブレンドゥルフ氏の全身を使った指揮に日本の楽団員も良く反応し、指揮者から賛辞をいただきました。アンコールには日本の曲「花は咲く」を合同で演奏し、舞台と客席が一体となるような感動に包まれて演奏会は終了しました。

③ダーラナシンフォニエッタ当別公演（兼 西当別小・中学校芸術鑑賞教室）

日時：平成30年9月21日（金）

西当別小学校公演 10：00～10：45

当別高校公演 13：30～14：15 両会場で観衆400名

会場：（午前）当別町立西当別小学校、（午後）北海道当別高等学校

当別町はスウェーデン・ダーラナ県レクサンド市と姉妹都市提携を結んでおり、午前中は西当別小学校に小中学生及び保護者、近隣住民を招いてのスクールコンサートを開催し、指揮者のブレンドウルフ氏による曲の解説を交えた演奏が行われました。児童生徒はみな一生懸命に説明と演奏に聞き入り、演奏終了後は西当別小学校児童の歌によるお見送りがあり、ダーラナシンフォニーエニエッタメンバも非常に喜んでいました。

午後は当別高等学校でスクールコンサートを開催しました。午前と同様のプログラムで好評でしたが、最後にはサブライズでダーラナシンフォニーエニエッタが当別高校の校歌を演奏し、生徒も教職員もみな感激していました。

④スウェーデンの音楽文化紹介レクチャーコンサート（ワークショップ）

日時：平成30年9月19日（水） 18：30～20：30

会場：札幌市豊平館 2階広間

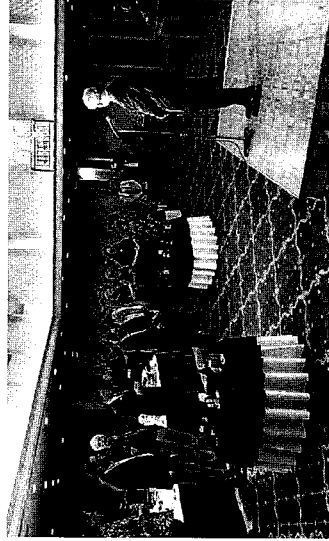
スウェーデンのクラシック作曲家を紹介するレクチャーコンサートを開催し、北欧音楽研究家の朝倉崇氏とダーラナシンフォニーエニエッタ事務局カーリン・ホルダー氏によるスウェーデンの作曲家についての講演と、ダーラナシンフォニーエニエッタのメンバー5名による演奏会を開催しました。定員30名のところほぼ満席の観衆に聞いていただき、質の高い演奏を演奏家の近くのこんな良い場所で聴かせてもらえたと非常に好評でした。

また、北海道庁や札幌市への表敬訪問のほかに、下記の交流行事も行われました。

ウエルカムパーティー

日時：平成30年9月18日

場所：札幌パークホテル



ウエルカムパーティーの様子（右下の写真中央がブレンドウルフ氏）

来日した当日の夕方に行行委員会主催で歓迎レセプションを開催し、東京からマダガス・ローバック駐日スウェーデン大使が駆けつけてくださいました。ダーラナシンフォニエッタからはカーリン・ホルダー氏の感謝のメッセージと、メンバーからスウェーデンの民謡を演奏するサブライズもあり、盛り上がったレセプションとなりました。

フェアウェルパーティー

日時：平成30年9月23日

場所：キタラ内レストラン

ダーラナシンフォニエッタと札幌フィルハーモニー管弦楽団の親善合同演奏会終了後、親善合同演奏会の打ち上げを兼ねたフェアウェルパーティーを開催しました。ダーラナシンフォニエッタと札幌フィルハーモニー管弦楽団のメンバー、実行委員会メンバーを併せて110余名の方が参加しました。指揮者のブレンドゥルフ氏からは今回の公演に対する感謝の意と、素晴らしいオーケストラと共演できたことを嬉しく思うところのご挨拶があり、ダーラナシンフォニエッタからスウェーデンの民族音楽とダンスを数曲披露するサブライズもあって、和やかな雰囲気で終了しました。両楽団のメンバーはお互いに今回の共演を通して親交を深めることができ、札幌フィルハーモニー管弦楽団のメンバーからも、今回、プロのダーラナシンフォニエッタと共演できて技術的にも表現の面でも得るところがあり、素晴らしい機会に恵まれて本当に良かったと感想をいただきました。



フェアウェルパーティー

成果

ダーラナシンフォニエッタ公演では、合わせると延べ1400名以上の方々にお越しいただいたことになりました。今回の公演でスウェーデンの音楽文化を広く北海道民に知ってもらえることができたと同時に、21日の当別公演では、わずかな時間の間にも小中学校の児童生徒や高校生徒と交流する姿が見られ、相互に交流を深めたいという熱い気持ちを汲み取ることができました。

18日と23日のレセプションでは日本側からも多くのの方々にご参加いただき、ダーラナシンフォニエッタメンバーと音楽談義をして交流するだけでなく、合同練習の際に実際の音楽演奏を通しての交流も見られるなど、音楽を通じた国際交流、相互理解に深く繋がったことと感じています。ダーラナシンフォニエッタも今回の来日公演は大成功であったと話しており、今後とも継続的な交流について模索していきたいと考えています。

この2年間で、関係者の皆様のご努力とご支援に深く感謝する次第です。本当にありがとうございます。

マグヌス・ローバック駐日スウェーデン大使講演

平成30年11月27日、ホテルモントレエーデルホフ札幌の22階ヒンメルの間において、当協会創立40周年記念祝賀会に先立って、ローバック大使の講演会が行われました。講演は英語で行われ、斎藤彩子先生が通訳されました。

その概要は以下のとおりです。

なお、講演はスライドを使って行われ、そのときに使用された何枚かの写真はここに掲載しましたが、すべてを掲載することはできませんでした。御了承ください。



マグヌス・ローバック駐日スウェーデン大使

日瑞国交樹立150周年記念および北海道スウェーデン協会創立40周年記念講演会講演
[2018年 日瑞交流の素晴らしい1年]

再び、札幌に戻ってくることができて、大変に嬉しく思います。

本日は、講義といった雰囲気ではなく、いくつかの写真を示しながら、皆さんとおしゃべりをするような感覚でお話をしたいと思います。

今年が、日瑞交流の素晴らしい一年だったことは言うまでもありません。

今年には幸先の良いスタートを切りました。すなわち、さっぽろ雪まつりで、スウェーデンは主役の一つとなりました。その実現には、北海道スウェーデン協会の尽力があったのです。ストックホルム大聖堂が雪像になるに当たっては、正確に寸法が測られました。完成した雪像の前にセレモニーが行われたのですが、当然寒い中ですので、私も厚着をして臨みました。ただ、足許だけは普通の靴だったので、寒さを感じることも、ファーで覆われた札幌市長の靴を見て、羨ましく感じました。

そのあと、旭川では、バーサロベツ大会が開催されました。この大会には、毎年、大使館からも参加をしております。私も1984年に参加したことがあります。

次いで、春には、東京でノーベル賞ダイアログが開催されました。

これは、ノーベル賞受賞者をお招きして、お話いただくという催しです。日本はその開催をするのにふさわしい国です。2019年にも第四回のノーベル賞ダイアログを行います。そのときには本庶佑博士が登場してください。

さて、スウェーデンと日本は、明らかに共通する一つの社会的・経済的課題に直面しています。高齢化ということです。

私たちは、イノベーションを用いて新しい方法で社会を再構成する必要があります。現在、日瑞両国で研究プロジェクトが進んでおります。それは科学的ではありませんが、市場のニーズにも適合するものであります（写真1／写っているのは



写真1

ローバック大使)。

ゴールデンウィークの直前(4月22日～25日)、グスタフ国王夫妻が来日されました。国王は18回目の来日になります。このときは、今までにない規模の経済関係者の一団が同行しました。スウェーデンの産業・ビジネス・コミュニティーは、日本側と、両国が未来に向かってどうしていくべきかという議論を行いました。ここでは、中国との関係だけに焦点を当てるべきではない、中国にも様々な課題があるのだから、ということが指摘されました。その後、日本の経団連は、スウェーデン側と対話を続けています。経団連は、3週間前に大規模な訪問団をスウェーデンに派遣しています。

18世紀の植物学者のツンベリは、日瑞交流に大いに貢献のあった人物です。今回、国王夫妻と天皇皇后両陛下がお会いになられた際にも、ツンベリを顕彰する式典に御一緒に臨まれてきました。天皇陛下もツンベリの研究には深い理解を示されています。

その後、国王夫妻は、赤坂離宮にて安倍首相に迎えられました。安倍首相のネクタイが青と黄色のスウェーデン・カラーになっていたのは偶然でしょうか？

ゴールデンウィーク時期には、私も、フィンランドやアイスランド等の大使と一緒にLGBTの人たちにとって平等な社会を目指すトーキョー・レインボー・パレードに参加しました(写真2)。

6月には、大使館にてスウェーデン・トラベル・デイのイベントが行われました。このときには、サーメイの人々が民俗衣装を着て参加しています。たしか本日、ある日本のコーラスグループがスウェーデンに向けて出発していますが、そのグループからは、そのときにジョイクというサーメイの唱法について、どうしてそんな唱法が生まれたのかということを探ねられました。私には正確なところはわからないが、狩猟や放牧した家畜を管理する際に、その必要から生まれたのだろう、と説明したところまで。

この夏には、「長くつ下のピッピの世界展」が八王子市内の美術館で開催されました。皆さんも、ピッピを始めとするリンドグレンの作品は子どもの頃に読まれたことがあると思いますが、是非再読してみてください。実は、私も、昨夜は三篇の作品を読みました。美しく、神秘的だと感じました。

9月には、国連のSDGs大使でもいらっしゃるヴァイクトリア皇太子が来日され、健全な海洋を保全するための会議に参加なさいました。今回は、水産会社が集まって海洋資源を保護するための提案が行われました。日本からも、世界の2大水産会社であるマルハニチロ株式会社と日本水産株式会社などが参加しました。また、ノルウェーや韓国、台湾からも出席がありました(写真3/前列中央が



写真2

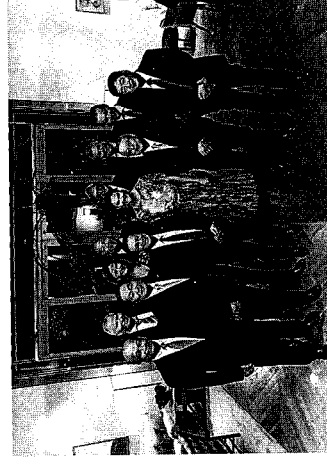


写真3

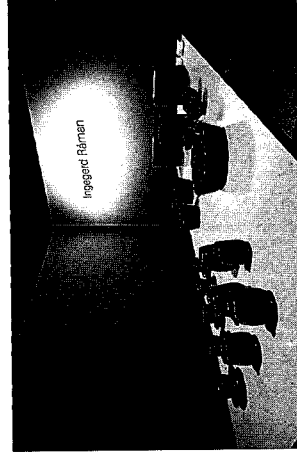


写真4

ヴィクトリア皇太子)。

さらには、スウェーデン交流センター35周年記念式典もありました。同センターでは、ガラス工房ができて、これまで何回もスウェーデン・ガラス展が開催されていますし、来月も開催が予定されています。大使館で開催されたこともありまます。同センターのガラス工房には、これまで多数のスウェーデン職人がやってきて、滞在しております。

次の写真は、国立近代美術館で開催されているインゲヤード・ローマンの展示会の様子です(写真4)。彼女の作品は、非常に日本の影響を受けています。すなわち、シンブルで、線がクリーンで、素材への拘りがあるということです。また、カール・ラーションと、その妻でテキスタイルアーティストのカリン・ラーションの展示会も、現在行われていますので、東京に行かれる方は、是非立ち寄ってみたいと思います。

今年には、ジャズやロックも含めて、多くの音楽交流がありました。ダーラナシンフォニーオーケストラの公演もそのひとつです。また、カール・ラーションの展覧会でも、ダーラナシンフォニーオーケストラが演奏しています。

ダーラナシンフォニーオーケストラの公演と同じ頃、東京では Tourism Expo Japan が開催され、スウェーデンは日本の観光協会から表彰を受けました(写真5)。

学術分野でも交流がありました。

日本では、大学が国際化を進めることを考えています。スウェーデンの大学もそうです。2015年には、双方の15大学が集まって、日本・スウェーデン学長サミットを開催しています。双方が一堂に会して、互いに目を向け合ったわけです。国際化とはそういうことなのではないかと思わされます。

これら大学はネットワークをつくって、MIRAIと名付け、交流していくことになりました。そのテーマは、高齢化、イノベーション、サステナビリティ、そして、新素材です。今年、各大学がMIRAIプロジェクトに熱心に推進に取り組みました。政治家たちも、さらなる取組を進めようとは意しています。

北欧ミュージック・フェストでは、ヘヴィメタル・ロックバンドがアコースティックライブを行い、洗練された演奏を聴かせました。

大使館では、マンガ展示会も開催しました(写真6)。ふたりのスウェーデン人の漫画家の作品を紹介するものです。

両国の交流の基礎は、両国の人々の情熱です(写真7)。

たとえば、マンガ展示会にその作品が展示されたオサー・イエークストロム。有名な日本茶の専門



写真5

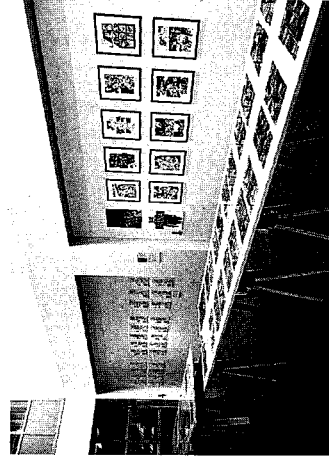


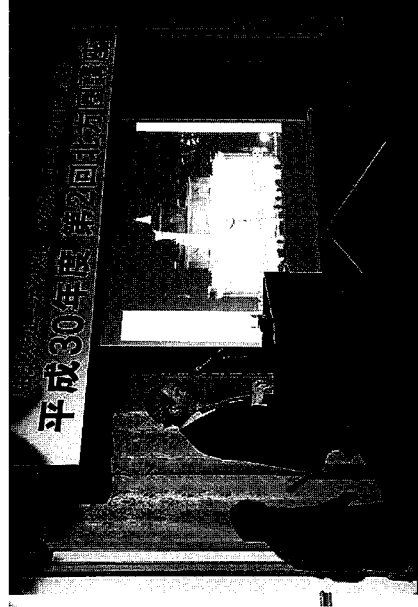
写真6



写真7

家ブレケル・オスカル。さらには、スウェーデン人の落語家もいます。しかし、彼らは一例に過ぎません。もちろん、反対にスウェーデンにきてくれる日本の若者もいます。彼らこそはパイオニアであり、これからの150年の交流の先導者となってくれるでしょう。

北海道スウェーデン協会にも期待しています。日瑞両国150周年を祝うとき、そのうちの40年は北海道スウェーデン協会の歴史にも重なるのです。北海道スウェーデン協会の設立40周年を心から祝いたいと思います。



講演冒頭



熱心に耳を傾ける聴衆



受付でのひとコマ

6 さっぽろ雪まつりスウェーデン雪像制作手記「大雪像ができるまで」

札幌市大雪像制作委員会 第3雪像制作部会 第1班長 高木英紀

Stockholm の旧市街にある王宮の直ぐ南にStockholm 最古の由緒ある教会、大聖堂がある。13世紀後半（日本は鎌倉時代）に建てられ何度も改築、増築され現在の大きさになったのは1480年代の事。

長い間、国王、女王の結婚式などの儀式が行われた場所でもある。

最近では2010年6月ヴィクトリア女王の結婚式も行われた。

そんな歴史ある大聖堂を、さっぽろ雪まつり大通公園に出現させた事についてお話しして行きたいと思います。

2017年10月2日 Stockholm 大聖堂への視

察、測量

会場管理・HBC 塚越さん

制作隊からは、制作統括・押之見、第一班長・

高木の3名で、早朝6時札幌駅を出発し自宅を

出てから約20時間後、Stockholm Arlanda 空

港に到着。(19時間程太陽を見てる)

空港には北海道 Sweden 協会の川崎さんが出

迎えてくださり、軽く挨拶を交わし4人で taxi

に乗り込み目的地の、旧市街 Gamla stan にある Scandic Hotel に直行。

hotel には日本大使館から在 Sweden 一等書記官 伊藤さんもロビーで出迎え下さり滞在中の予定を確認して check in

階段とエレベーターを使い部屋に行くのだががこの建物も何せ古い！石で出来た階段の中央部分が磨り減っていて注意しなければ転倒しかねないほど窪んでいる。

建造は17世紀、日本では徳川の平和が訪れた時代、まだ刀を振り回していた頃だろう。

近所のレストランにお出掛け。初めて訪れる街はワクワクするものだ。

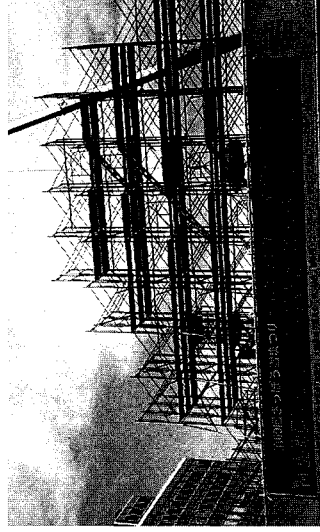
この日雨が降っており雨晒しの旧市街、石畳が光っていてそれがまた良い雰囲気を出しており強く印象に残っている。

長時間の移動で疲れたので早めのベッドイン。確か21時頃

時差のせいなのか深夜2時に目覚めてしまいが明日の長い1日に備え目を閉じようとするが寝付けない。音楽を聴いて relax するが眠れない、あつという間に時間が経ち am5 時を回った頃

ふっと“大聖堂が見たい”と強く思いiphone で google maps を開き現在位置と大聖堂の位置を確認するとかなり近い 200m 以内
歩いて行ける距離だ

ジャケットを着込み大体の方向を確認して hotel を飛び出す。10月の Sweden はまだ陽も昇らず夜のままの旧市街 誰もいない薄明るい街灯の Gamla stan は強烈なインパクトがあり何度も立ちま



カメラを手にする

路地を歩いて行く toward 側に時折見えるラ
イトアップされた時計塔

Sweden 行きが決まり大聖堂のことを調べて
いる時に何度も見た時計塔だ
歩いてるだけで心が騒ぐ

まるでず一と逢っていない恋人にでも逢いに
行く気持ちに近い。

ようやく目的の Stockholm 大聖堂に辿り着
く 寄り道し過ぎたせいで思いの外時間がか
かった 路地を曲がる度に今まで見た事のな
い素晴らしい街並みで立ち止まるからだ。

想像していたよりも大きい この建物を礼儀
に出現させる事が出来るのかと不安に思う。
人気の無い大聖堂前に腰を下ろし雪で作るに
は何処まで出来るのかを考えながら全体のポ
イントとなる6本の柱、円窓、大きな特徴の
大きな窓、センターにある銅像、見た目は3
階建てだが実際は5階建の高さになるこの大
きな建物を何処まで精巧に作れるかある意味
制作隊にとっても挑戦に近い。

あれこれ考えていると hotel に居る2人との
約束の時間になって慌てて hotel に帰る
朝食を摂りながらこれからの4日間の予定を
確認して打ち合せをする

楽しみの1つでもある朝食はと言うと (朝食付きの hotel) メインはやはりパン
パンだけでも6種類、ソーセージ、フルーツ、フレッシュジュース、他ベジタリアン
メニューとバリエーション豊富 音楽も良い 何処へ出掛けても朝食の時間は何とも楽しいです。今
日は長い1日になりそうなのでりんごをおやつに食べようとまるとポケットに入れ出発準備をする
ため各自部屋へ。

いよいよ大聖堂の身体検査に向かいます。

小型カメラ、一眼レフ、赤外線測量機、メジャースケール、ノートをザックに詰め込み hotel を出発、
am7:30 外は既に陽が昇っており Stockholm の1日が始まっているのではないか 早朝とは違い通勤
の人達でいっぱいになっている。でもよく考えたら僕達も仕事だ 観光の人達が押し寄せて来る前に
写真をとりたいので先を急ぐが石畳の小道で時おり立ち止まり街並を見る3人は笑顔。
数時間前にご対面しているので道のりはわかっている 10分程で到着し3人で初めて見る Stock-



holm 大聖堂

陽が当たっていて先ほどとは雰囲気が違う
“カッコイイ”

中央に立ち写真を撮りはじめる3人。近づいては離れ右、左へと移動して角度を変えたり窓のアップ、全景、3メートル程の銅像までもが10分割して取められる雪像を作る時に制作隊全員が見る大切な資料になるので各ポイント3パターンで撮っていたので凄く数の写真になった。

次に測量なのだが地上から測れる所は問題ありません、正確な高さが測れるかが気になるところでした。

そこで今回の頼みの綱、赤外線測量機。手の平サイズのこの機械かなりの優れもので赤外線を出し返ってきた赤外線で計測出来てしまうものですね。かなりの時間やっていたのでしよう、am10時に待ち合わせしていた川崎さんと日本大使館の伊藤さんが到着しました。

大聖堂の象徴でも有る時計塔に上って写真を撮れるよう調整してくださいって正面に回り込み大聖堂の中へ。

そこで責任者であるウルフさんとご対面 一通り説明を受けるが話す言葉は Swedish 全く分かりません 全て川崎さんが通訳して下さいました。何度も素敵な方だなあと思いました。

いよいよ時計塔の中へ！約800年以上経っている薄暗く狭い階段を登りながらとても長い間変わらずここにある事に想いを馳せていると時おり“痛い”と聞こえる
よく見えなくて頭をぶつけているようだ。笑
しばらく上がり最後のドアを開けると閃光が走り一瞬眩を閉じる
目を開けると目の前に広がる旧市街 更に奥へと広がる街並みが見える。



感動のあまりウルフさんの説明も耳に入らない 我に振り返り周囲を見渡すと大聖堂が眼下に見える高さだ。

Gamla stan は小高い丘の上にあるのだが更に高い位置から見ることが出来るのは本当に有り難く思うが雪で何処までやれるかとまた考えてしまう。

地上に降りてそのまま5人でランチへ ここでSwedenの食文化に触れたいと思います。

Sweden 食事 と検索すると必ず出て来るのが牛肉を使用したミートボールだ

何処の国にもありそうだがここでは伝統料理らしい。

見た目は直径3、4cm程の大ききだろうか一口で入りそうだが残念なことに僕は牛肉が苦手、

せつかく遠い国に来ただからと挑戦してみるのがやはり苦手な牛が主張して来る他にも沢山あるが書ききれないので僕達3人が勝手に決めた美味しかったno.lfoodはGamla stanにある味噌ラーメン Cafe Stiernan という cafe でした
「何だよ、ラーメンかい」と思うでしょうが中々のクオオリティーだったので記憶に残っています。



札幌で出現させる為に必要な写真、寸法、空気感、は沢山手に入れる事が出来た。帰ってから忙しくなりそうだが、残りの数日は国会議事堂、ドロットニグホルム宮殿、Gustafsbergの工場、IKEA 本店を廻りタププリ Sweden を感じる事が出来ました。滞在中日課にしていた朝の散歩がお気に入りです。徒歩で行ける範囲でしたが毎日行き先を変えて Stockholm の通勤風景を楽しみました。

自転車道が整備されていて大人も子供も物凄いスピードで走り抜けていくのです。

気が付けば帰る日になっており、妻への土産をバックに詰め込み Sweden を後にしました。

初めての北欧、天候にも恵まれ、素敵な紅葉にも出会い、楽しい時間を過ごす事が出来ました。

このままの気持ちで北海道に帰り Stockholm 大聖堂を造る準備に入ります。

大雪像の 1/40 の模型を 4 人の技術者で制作していきます。

大通公園に造るサイズは決められていて、高さ：15m 幅：20m 奥行き：7m

実物大の大聖堂を雪で造るのは不可能なので大体 2/3 位までデフォルメして考えていきます。

出来るだけ細かな所まで造型できるように何度も写真を見て、何度も打ち合わせして失敗もしながら可能な限り本物に近くなるように作り込んで行きます。

3 週間程で模型が完成してそこから図面を作ります。

年が明け北海道神宮で安全祈願を済ませ、いよいよ大通公園に大聖堂を出現させる作業に入ります。まず雪を積んでいくのだが予めコの字に足場を 9 段 16m 程の高さまで組まれてあり雪が溢れないようにコンパネを貼り付けてパワーショベル 2 台で積み上げていきます。

今回使用された雪積み用の雪は石狩当別から輸送されて来ます。

当別町といえば Sweden レクサンドとの姉妹都市、ある意味 100% Sweden の大雪像ができる事になる。

ある程度積まれたらコの字型の足場をコの字の様に全面塞ぎます

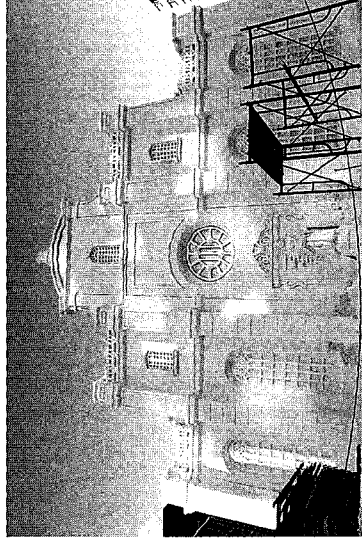
ここからはクレーンを使用して積んでいくのだがなにせデカイので雪積みだけで 1 週間使いました。残された時間は 21 日。

“寝かせ” と言う工程があって積んだ雪が締まるのを待つ時間だ。

通常 2 日位みるのだが工程的に 2 日は待てないので次の日から前面のコンパネを外し柱 6 本の荒削りに入る。(荒削りとは 70% まで形を出す事)

3 階、2 階と上部から順に荒削り作業が進み 1 階の大きな窓に差し掛かりこのデカイ窓と 6 本の柱の

バランスを取るのに時間かかりました。
建設現場の様に水平器と水糸を駆使して進められていきます
大きな雪の塊は日々変化していて毎日基準となるポイントの確認が行われます。



細部仕上げに入っていきます。
荒削りで出された面に化粧雪と呼ばれる中山峠で手積みされたサラサラの雪に少量の水を混ぜてメレンゲの様にふんわりと攪拌した物を貼って拳で叩いて固めます。そうする事で溶けずらく、表面が真っ白な雪で覆われるのでとても綺麗な仕上がりになります。

これが中々骨の折れる作業で何日も雪の塊にパンチを浴びせているので作業隊全員指先のヒビ割れ、手首の炎症を起こしています。

3階2階が仕上がり1月27日には1階の仕上げに全員で取り掛かります。

化粧雪を作る班もフル稼働で1階部分に運ばれてそれを貼り付けて、の繰り返しで大きな窓がみるみる完成していきます。

この頃になると足場も大分解体され中心にいる銅像も姿を表し、Stockholm で見た大聖堂に限りなく近づいていくのが嬉しくて堪らない瞬間です。

Sweden 国旗がつけられ完成です。

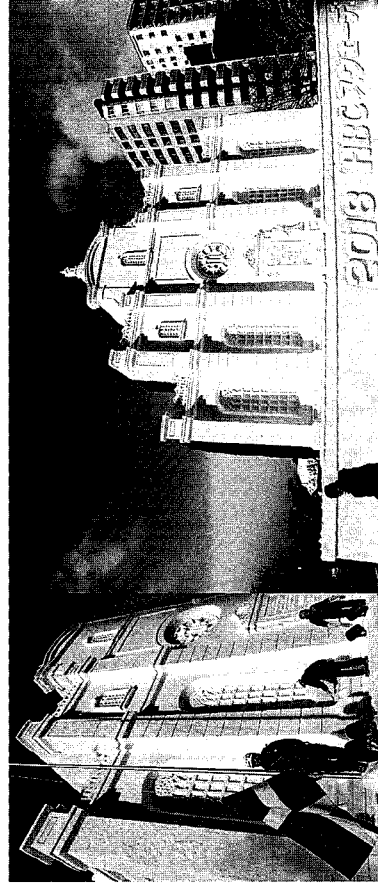
Sweden と日本の国交150年の節目にStockholm 大聖堂の大雪像を制作する事で携われた事が非常に嬉しく感謝の気持ちで一杯です

これも 北海道Sweden 協会様 の大きな協力が有ってはじめて実現出来たと深く思っております。

これからもSweden と日本が深く繋がってお互いの国が繁栄し続ける事を心から願っております

ありがとうございました。

札幌市大雪像制作委員会 第3雪像制作部会 第1班長 高木 英紀



「働くために生きている」から 「生きるために働く」へ



宮川 絢子 (みやかわ あやこ)
カロリンスカ医科大学病院外科医師
スウェーデン在住

スウェーデンに移住して10年が経ちました。日本の医師免許をスウェーデンの医師免許に書き換え、外科（泌尿器科）専門医として、カロリンスカ大学で働いています。スウェーデンでは、基本的に週40時間勤務で、医師も例外ではありません。私も朝7時半から夕方16時までが勤務時間で、仕事が終わればフレックス制を用いて早退することもできます。勤務時間常以外はオンコールの医師が対応し、日本のように主治医が対応する必要はありません。オンコールは、週40時間以外の勤務になり、その2割ほどは賃金で支給、残りは休暇として支給されるため年間を通じるとかなりの休暇を取っていることになりました。夏は医師でも4-5週間の休暇を取るのが通常です。

男性も女性とほぼ同等の育児休暇を取得しますし、病児休暇なども男性が分担しているため、日本のように女性が圧倒的に不利という職場環境は存在しません。私は高齢出産で双子を授かりましたが、母乳育児を諦めなければならなかったため産後3ヶ月で職場復帰しました。スウェーデンでは1歳から全ての子供が保育園に登園する権利があります。朝食から面倒を見てくれ、オムツも支給される（もちろん、使用済みのオムツを持ち帰る必要もない）ため、ワーキングマザーにはとても優しい環境でした。職場でも、病児休暇を取得することで、嫌な顔をされようということはありません。ある時、息子が頭部を受傷したことがあったのですが、私はちょうど手術を始めようとしたところで、日本であれば手術を降りることはあり得ませんが、スウェーデンでは、代わりの執刀医を準備してくれたということがありました。

日瑞の医療を比較すると、同じようなレベルにあるという印象ですが、スウェーデンでは、新しい治療や技術が臨床で使われるのが早く、その点では日本はフットワークが速く感じます。今や日本でも標準的になってきた手術支援ロボット、ダビンチに関しても、スウェーデンは日本にずっと先駆けて導入していました。私は主に、ロボット支援手術による膀胱全摘や前立腺全摘を行っています。このような大きな手術の領域では、男女平等といわれるスウェーデンであっても男性優位であり桃源郷とはいえません。このように女性が闘って行かなければならない領域が残っています。しかしながら、社会における女性の状況、また、女性自身の自立意識は、日本はスウェーデンより半世紀は遅れていますので、労働力の不足、少子化などの問題と合わせて、日本の置かれた状況は非常に深刻だといえるでしょう。

常々、スウェーデンは、「生きるために働く」国だと感じてきました。対して、日本は「働くために生きている」国です。それで本当に幸せなのでしょうが？たしかに日本は便利です。スウェーデンで医師でも4-5週間の休暇が取れるのは、夏季休暇の期間も、全ての業務を半減させるからです。つまり、患者さんにとっては不慣れた状況となります。日本でも、国民が、多少不慣れた状況を許容して仕事量を削減し、もう少し人間らしい生活をすべきなのではないかと思います。敗戦後、がむしゃらに働いて国が発展してきた時代はもう終わりました。スウェーデンで働いていると、長時間頑張って働くことだけがクオオリテイを伴う結果を生むのではないのだと思うようになりました。日本に住んでいる日本人にも、ぜひ考えていただきたい問題です。

コラム

*この文章は、スウェーデンカロリンスカ医科大学病院 宮川絢子先生がJFMA journal winter 2019に寄稿された文章を、先生の許可を得て転載したものです（協力：鈴木岳医師＝当協会常任理事）。

事務局だより

当協会は、昨平成30年度も、六月の総会に始まって、数回に渡る理事会の開催等を通じて活発な活動を展開しました。

しかし、報告すべき最大のことは、日瑞外交樹立150周年記念行事であり、また、当協会設立40周年記念祝賀会の開催でありましょう。

150周年記念行事については、その期間が2018年1月～12月の一年間ということ、本来ならば本「白夜」が扱うべき2018年4月～2019年3月という期間とは少しずれているのですが、すべてを一体として扱うべきという考えから、今回の「白夜」では厳密には平成29年度中となる2018年1月～3月のイベント等についても詳しくご紹介しております。

様々な150周年記念行事が行うことができましたが、その中でも、やはり、さっぽろ雪まつりスウェーデン雪像制作とダラーナシンフォニーエッタ公演が最大のトピックと言えましょう。関係された各位には、その多大なる御尽力に深い敬意と感謝の気持ちを捧げるものであります。

そして、その日瑞外交樹立150周年という記念すべき年に、東京からマグヌス・ローバック大使をお迎えして、当協会の設立40周年記念祝賀会を開催することができましたことは、誠に喜ばしいことであります。

日瑞交流151年目に当たるとは、平成に替わる新しい元号の初年度であり、当協会としても新たな時代に向けて、何ができるのか、真剣に考えていかなくてはならないでしょう。事務局としても、加藤会長、杉本顧問の指導の下、その任務の遂行に全力を挙げて取り組む所存です。

各会員の皆様に対しては、日ごろの当協会の活動に対する理解と協力に感謝するとともに、それぞれの一層の御発展を祈念いたします。特に、事務局の物理的スペースを提供していただくなど、法人会員の株式会社アラゼン様には、当協会の活動に対して多大な貢献をいただいております。ここに深く感謝申し上げます。

なお、本号から「白夜」の制作担当者が変わりました。制作初仕事ゆえの不出来は御容赦ください。今後とも、どうぞ、よろしく願っています。

〈追記〉

平成31年4月 事務局 目黒聖直

過日、当協会の杉本顧問・前会長に対するスウェーデン国王からの「北極星勲章」叙勲が決定したとの通知が、大使名にてスウェーデン大使館から本人に届きました。また、スウェーデン在住の川崎顧問にも同勲章が手渡されたとの報を受け取っております。

両顧問のスウェーデンと北海道との間の交流促進に対するこれまでの貢献が高く評価されたものです。心よりお喜び申し上げます。

白夜

—第40号—
2019.4

創立40周年記念号

発行人／北海道スウェーデン協会
会長 加藤 誠

〒062-0911 札幌市豊平区旭町3丁目1-7
北海道東リビル3階(株)アラゼン内
TEL (011) 837-8411 FAX (011) 837-2398

印刷／株式会社アイワード
札幌市中央区北3条東5丁目5番地91
TEL (011) 241-9341 FAX (011) 207-6178